

証券コード: 9348

# 2025年3月期 通期 決算説明資料

ispace

## 2025年3月期 通期 決算説明資料の流れ

▶ エグゼクティブサマリ（2025年3月期 通期の総括）

---

▶ 事業ハイライト

---

▶ 財務ハイライト

---

▶ Message from CEO

---

▶ Appendix

- 株式情報
  - 当社の事業概要
  - ミッション1について
  - 開発KPI
  - 営業KPI
  - 持続可能なビジネスモデル
  - 業績推移
  - 用語集
-

## 2025年3月期 通期の総括

### 事業環境

- 2025/3期は、「民間月面ビジネスの幕開け」の年。当社を含む民間月面探査が世界で相次ぎ、また日本の宇宙戦略基金を筆頭に政府による支援体制も本格化した1年
- 2025/2の日米首脳会談にて、月面探査におけるパートナーシップの継続が共同声明に織り込まれる<sup>(1)</sup>など、引き続き、日米を軸に当社にとって良好な事業環境が期待される

### 当社開発

- **Mission 2**：ミッション1対比で開発期間の大幅短縮とコストの大幅削減を実現させ、ミッション1から僅か2年で打上げ。順調に進捗中であり、5/9時点でSuccess 7まで成功！6/6に月面着陸予定
- **Mission 3**：発注先の納品遅延に伴い、打上げ時期を2027年へ変更することを決定。遅れを最小限に抑えるため、当該発注先と共に新たにエンジン開発に着手
- **Mission 4**：SBIR補助金を基にSeries 3ランダー（仮称）を順調に開発中。PDR<sup>(2)</sup>完了に向け熱構造モデルでの試験が完了

### 当社ビジネス

- **Mission 3**：NASAペイロードに係る既存の契約金額を増額。またルーマニア民間企業、イタリア宇宙機関との間でそれぞれ最終契約を締結
- **Mission 4**：当社が中核的役割を担う研究開発課題が宇宙戦略基金 第1期に採択され、今後当社の受領額が確定予定
- **将来ミッション**：現時点において、売上パイプラインは合計32社\$655MMに拡大！

### 当社財務

- **Loan**：2024/3から現時点<sup>(3)</sup>において、総額198億円（借換含む）の借入を実施し、安定した現預金水準を維持
- **Equity**：2024/10発表のエクイティ・プログラム<sup>(4)</sup>に基づき、普通株式による調達で総額70億円を調達し、財務基盤を強化

(1) <https://www.jimin.jp/news/information/209939.html>

(2) Preliminary Design Review (PDR): 基本設計審査会。仕様値に対する設計結果、設計検証計画の実現性を確認する審査会で、当社のランダー開発における重要マイルストーン

(3) 2025/5/9現在

(4) 本エクイティ・プログラムに関する詳細は、2024/10/11開示の「第三者割当による普通株式及び新株予約権発行のご報告」をご参照ください

# 01

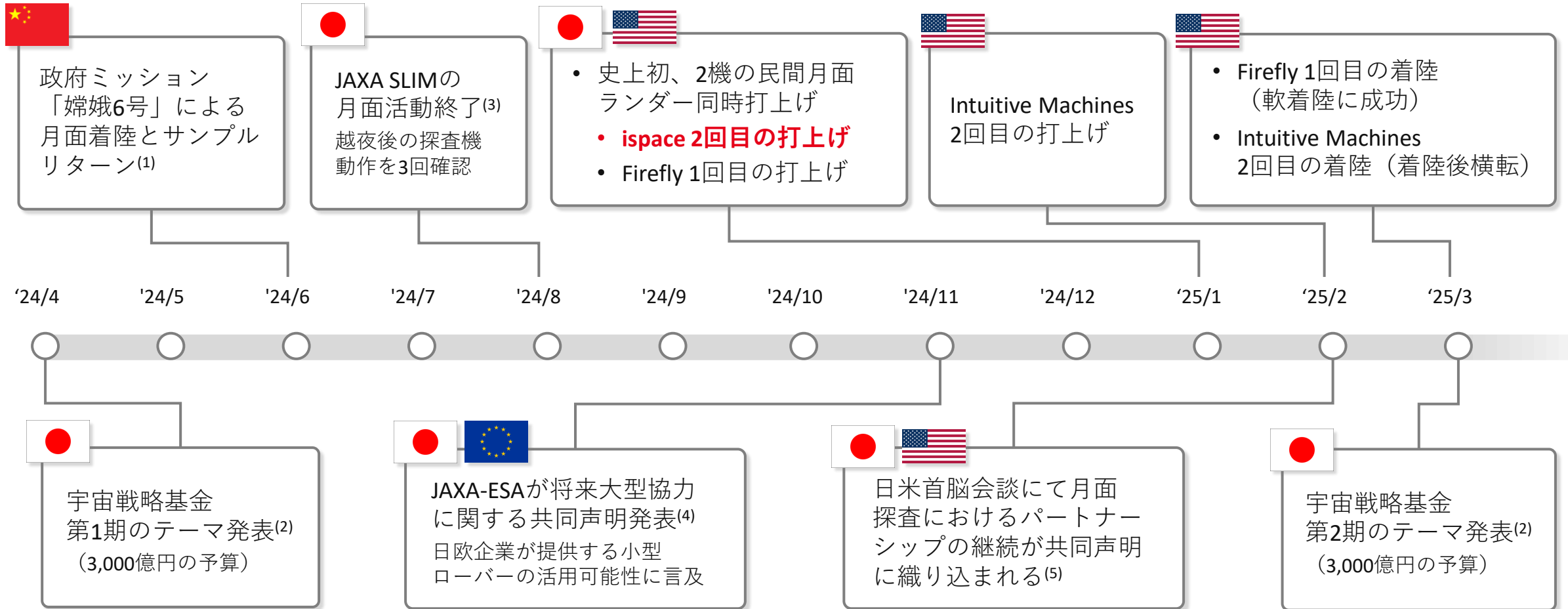
## 事業ハイライト

コンテンツ：

- 事業環境
- ミッション2の進捗
- ミッション3の進捗
- ミッション4の進捗
- ミッション計画
- 将来ミッションの進捗
- IR活動の状況



## 2025/3期は「民間月面ビジネスの幕開け」の年。政府だけでなくispaceを含む民間月面探査が世界で相次ぎ、また日本の宇宙戦略基金を筆頭に政府による支援体制も本格化



(1) <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240625/k10014491441000.html>

(2) <https://www8.cao.go.jp/space/kikin/kikin.html>

(3) [https://www.jaxa.jp/press/2024/08/20240826-1\\_j.html](https://www.jaxa.jp/press/2024/08/20240826-1_j.html)

(4) [https://www.jaxa.jp/press/2024/11/20241120-1\\_j.html](https://www.jaxa.jp/press/2024/11/20241120-1_j.html)

(5) <https://www.jimin.jp/news/information/209939.html>

2025年（運用中）

# Mission 2

## ミッション全体像

- 2025/1/15に打上げ、**順調にミッション運用中。2025/6/6着陸予定**<sup>(1)</sup>
- **ミッション1を通して実証されたハードウェアを再度活用**したRESILIENCEランダーを使用。ミッションの成熟度の向上、月面着陸技術の検証完了を目指す
- 欧州法人が開発したマイクロローバーを初めて実証予定。将来的な月面探査に向けた第一歩
- 月のレゴリスを採取しその所有権をNASAに譲渡する、NASAとの月資源商取引プログラムを実施予定
- ミッション運用中のリスクを補償する「月保険」を締結

## ペイロード顧客

営業完了・輸送中

総契約金額:

約 \$ **16** MM<sup>(2)</sup>

 高砂熱学

水電解装置

 ユーグレナ

藻類栽培装置



放射線量計

 BANDAI NAMCO

“宇宙世紀憲章”  
プレート



ムーンハウス  
(アート作品)

## 使用するランダー等

運用中

### RESILIENCEランダー

#### サイズ

高さ約2.3m、幅約2.6m  
(着陸脚を広げた状態)

#### 重量

約1,000kg (Wet: 燃料装填時)  
約340kg (Dry: 無燃料時)

#### ペイロード積載可能容量

最大30kg



 RESILIENCE

### TENACIOUSマイクロローバー

#### デザイン

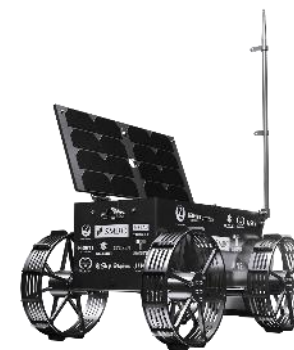
軽量かつロケット打上げ時等の振動に耐える頑丈性を実現

#### 重量

約5kg

#### ペイロード積載可能容量

最大1kg



 TENACIOUS™

(1) 2025/5/9時点

(2) 2025/5/9時点。数値は小数点以下切り捨てとなっています

Success 5となる月フライバイで撮影された月の姿。  
2025/2/15撮影 (©ispace)



“Goodbye Earth” と命名された、地球の美しさを記憶に焼き付ける一枚。2025/2/18撮影（©ispace）





2025/4/24 (日本時間)

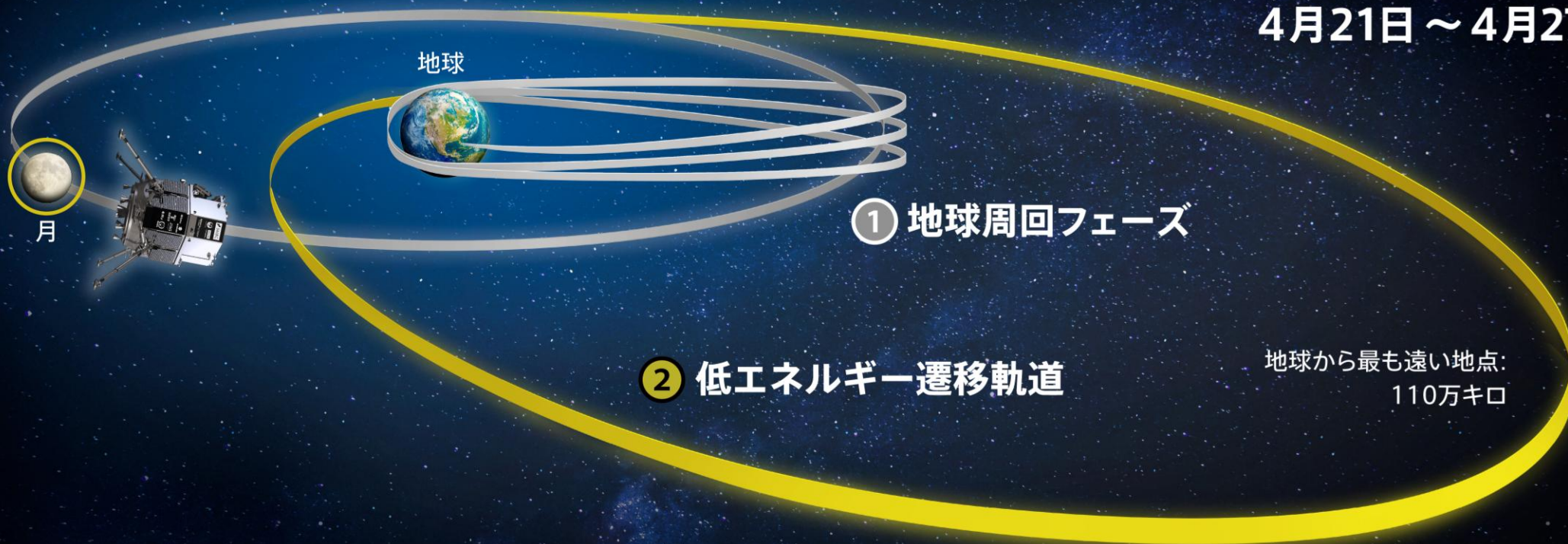
Success 6 ✓

## 周回軌道投入前のすべての深宇宙軌道制御マヌーバの完了

低エネルギー遷移軌道上を約2カ月の長い期間をかけて、地球から最も離れた距離で約110万km地点まで到達する深宇宙の旅を続けておりましたが、RESILIENCEランダーは、いよいよ月へ帰って参りました！

### ③ 月周回フェーズ

4月21日～4月27日



2025/5/7 (日本時間)

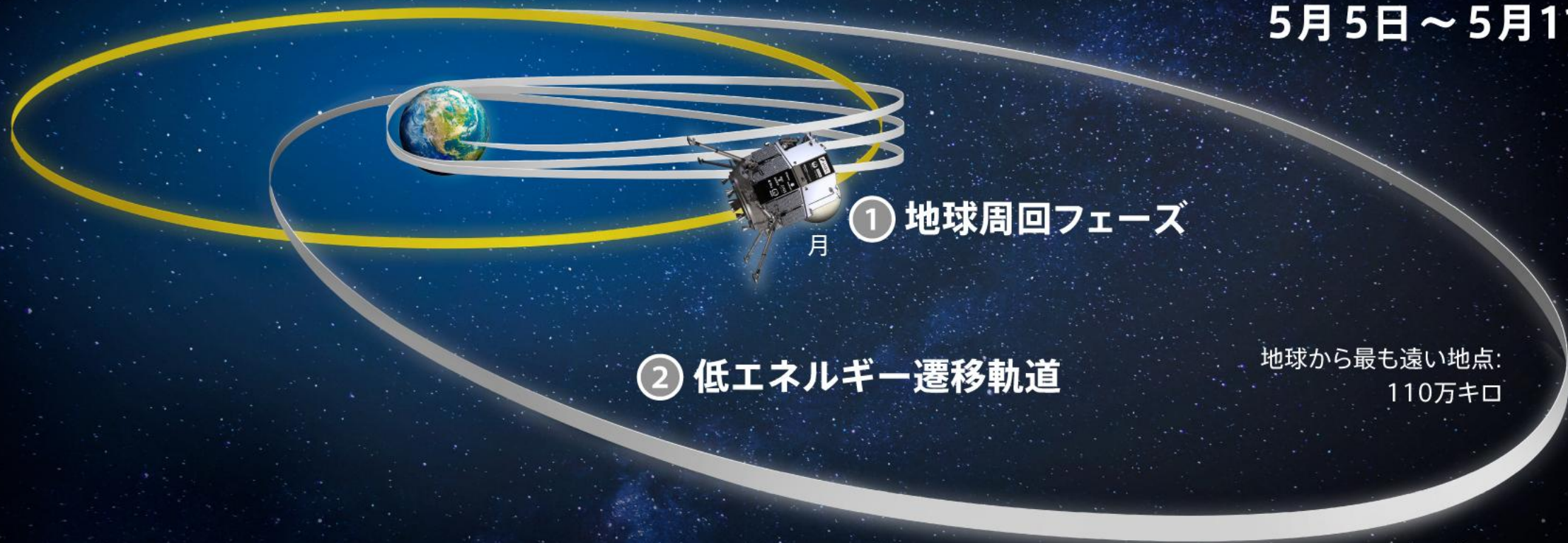
## 月周回軌道への到達

# Success 7 ✓

2025/5/7 午前5時41分に、最初の月周回軌道投入マヌーバを実施。これまで実施の全9回のマヌーバの中で、最も長時間の燃焼を要する非常にクリティカルな運用。予定通り月の重力圏へ軌道投入を完了し、いよいよ月面着陸へのカウントダウンが開始！

### ③ 月周回フェーズ

5月5日～5月11日

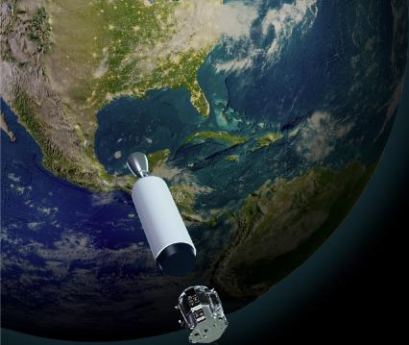


① 地球周回フェーズ

月

② 低エネルギー遷移軌道

地球から最も遠い地点:  
110万キロ



▶ **Success 1** ✓  
打ち上げ準備の完了  
2025/1/14 完了

▶ **Success 2** ✓  
打ち上げ及び分離の完了  
2025/1/15 完了

▶ **Success 3** ✓  
安定した航行状態の確立  
2025/1/15 完了

▶ **Success 4** ✓  
初回軌道制御マヌーバの完了  
2025/1/17 完了

▶ **Success 5** ✓  
月フライバイの完了  
2025/2/15 完了

# ミッション2 マイルストーン

ミッション2では、10段階のマイルストーンを設定し、それぞれのサクセスクライテリアを達成することを目指します。

2025/5/9時点で**Success 7**まで完了！

▶ **Success 7** ✓  
月周回軌道への到達  
2025/5/7 完了

▶ **Success 6** ✓  
LOI前のすべての  
深宇宙軌道制御マヌーバ  
の完了  
2025/4/24 完了



▶ **Success 8**  
月周回軌道上での  
すべての軌道制御マヌーバ  
の完了

▶ **Success 9**  
月面着陸の完了

▶ **Success 10**  
月面着陸後の  
安定状態の確立

**ispace**

※記載内容は変更となる可能性があります

2025年（運用中）

# Mission2

ミッション2でも「月保険」を締結済。ミッション運用中のリスクを補償

三井住友海上

MS&AD INSURANCE GROUP

打上げ～高度 100km の  
月周回円軌道上までの軌  
道制御確認完了まで  
(注：着陸を含まない)

約 **21** 億円<sup>(1)</sup>

## 締結先

- ミッション1時と同様に、三井住友海上火災保険株式会社との間で締結

## 保険責任範囲

- ミッション1の月保険を組成した2022年と比較して、足元の宇宙保険のマーケット環境がハード化
- ミッション1で獲得した有効なデータを活用することが可能であることも鑑み、保険料と補償範囲のバランスを考慮して確定

## 保険金額

- 保険金額は21億円
- R&Dミッションと位置付けるミッション2において、月保険締結により財務的リスクへの手当てを行うことで、ミッションの不確定要素を軽減させる戦略
- 保険料は2025年3月期Q3に支出し、保険期間にわたり分割して損益計算書に計上

(1) 小数点以下切り捨て

オンラインライブ視聴先（日本語）

<https://ispace-inc.com/chakuriku>



# MISSION 2

SMBC × HAKUTO-R  
VENTURE MOON

# LANDING

# 2025.6.6. Fri

# 4:24 AM JST\*



ispace

As of May 2025

\*上記日時は運用状況に応じて変更される可能性があります。

# ミッション2 月面探査

## Venture 5

### ▶ すべてのペイロードの運用完了

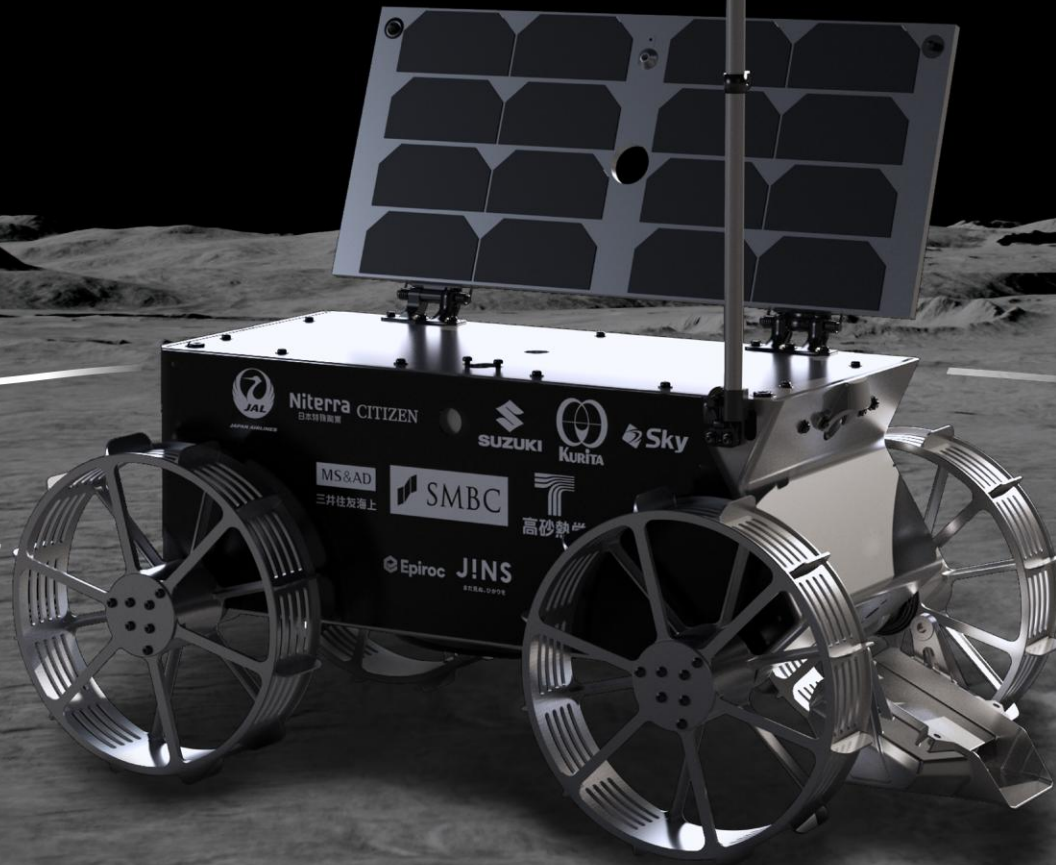
- ランダー及びマイクロローバーに搭載したすべてのペイロードの月面運用を完了する。



## Venture 4

### ▶ ローバー搭載のスコップによる 月レゴリスの採取

- マイクロローバーに搭載されたスコップを用いてレゴリスを採取したことを確認する。
- NASAとの契約における第1段階、レゴリス採取を完了する。



## Venture 3

### ▶ ローバーの月面走行と通信の確立

- マイクロローバーのソーラーパネルとアンテナを展開する。
- 月面での自立走行を開始し、マイクロローバーとランダー間の通信を確立する。

## Venture 1

### ▶ ペイロード運用の開始

- ペイロードシステムの安定状態を確認し、電力供給、通信、熱管理を行いながら月面運用を開始する。

## Venture 2

### ▶ ローバー展開

- マイクロローバーの安定状態を確認し、月面に展開する。

# 2027年 Mission3

## ミッション全体像

- **打上げ時期を2026年 → 2027年<sup>(1)</sup>に変更（詳細は次頁）**
- NASA CLPS Task Order CP-12の採択ミッション
- 月の裏側、南極付近へ着陸予定
- 最大300kgペイロード輸送が可能
- 2基のリレー通信衛星を搭載し、月周回軌道へ投入予定

## ペイロード顧客

営業進行中

総契約金額:

約 \$ **65** MM<sup>(2)</sup>

**NASA**

複数実験機器  
の輸送と実験



自律航法誘導制御機器



超広帯域無線システム



レーザー反射鏡

## 使用するランダー等

ランダーCDR<sup>(3)</sup>完了予定を今年冬に変更

### APEX 1.0ランダー

#### サイズ

高さ約3.3m、幅約4.5m  
(着陸脚を広げた状態)

#### 重量

約5,390kg (Wet: 燃料装填時)  
約1,730kg (Dry: 無燃料時)

#### ペイロード積載可能容量

最大300kg

#### 衛星

Blue Canyon Technologiesが  
提供する衛星バスを基に開発  
されたリレー通信衛星2基

#### マイクロローバー

ミッション2に続き搭載予定



**APEX 1.0**

(1) 現在想定しているミッション及びスケジュールであり、変更となる可能性があります  
(2) 2025/5/9時点。数値は小数点以下切り捨て

(3) Critical Design Review (CDR): 詳細設計審査会。製造と試験の詳細設計と検証計画が適正かを、これまでに実施した施策評価、熱構造特性の評価、電気機械設計等の評価を活用して確認する審査会で、当社の開発における重要マイルストーン

2027年

開発進捗

# Mission3

APEX 1.0ランダーで使用するエンジンの納品遅延が発生し、スケジュールを変更

## 背景：エンジン発注先の納品遅延

- APEX1.0ランダーで使用するエンジンをAgile Space Industries（以下Agile）へ発注
- Agileと当社米国法人とで協議の結果、**Agileが開発予定のエンジンが当初予定していた納期に間に合わない**ことが確定

## 対応策：新しいエンジンを共同開発

- Agileと米国法人とで**新エンジン「VoidRunner」を共同開発**することを決定
- Agileは当エンジンの本体部分の開発を、当社米国法人は、エンジンの出力をコントロールするバルブの開発を担当
- 当設計変更により、結果的に推力増強に繋がり、また必要な部品数を4分の1に削減することで設計の複雑さを軽減させる効果を見込む

## スケジュールを変更

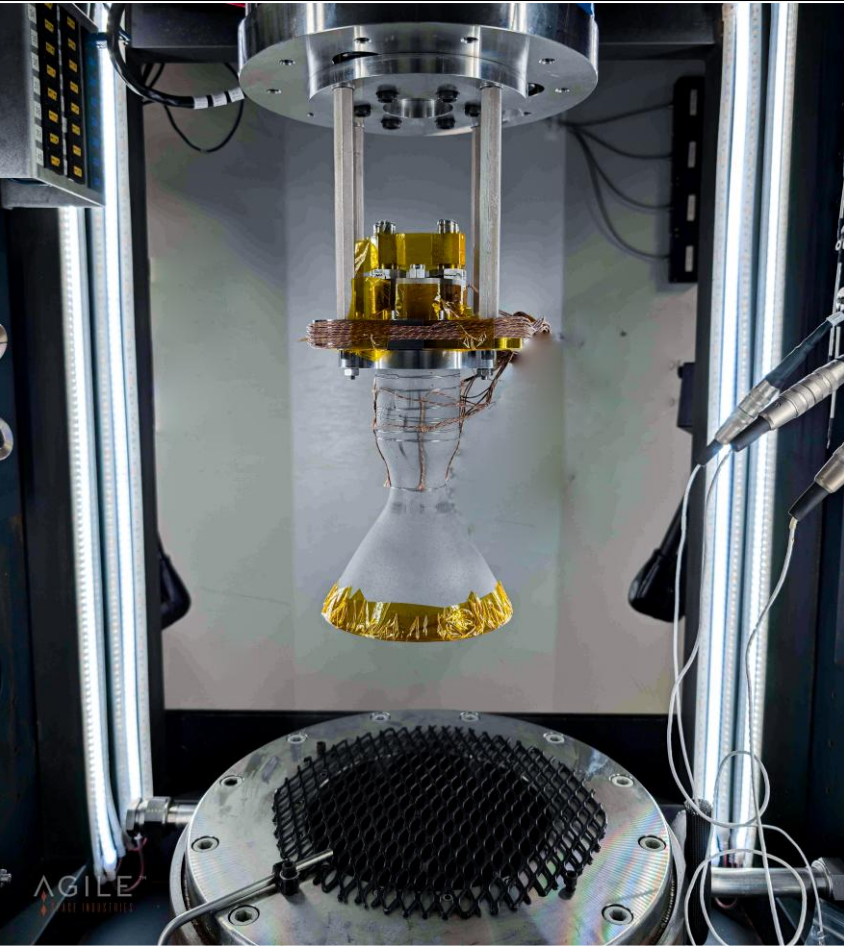
- VoidRunnerを用いた新たなCDR<sup>(1)</sup>実施時期を設定し、打上げ時期を約1年後ろ倒し

	変更前	変更後
CDR	2025年春	2025年冬
打上げ	2026年	2027年

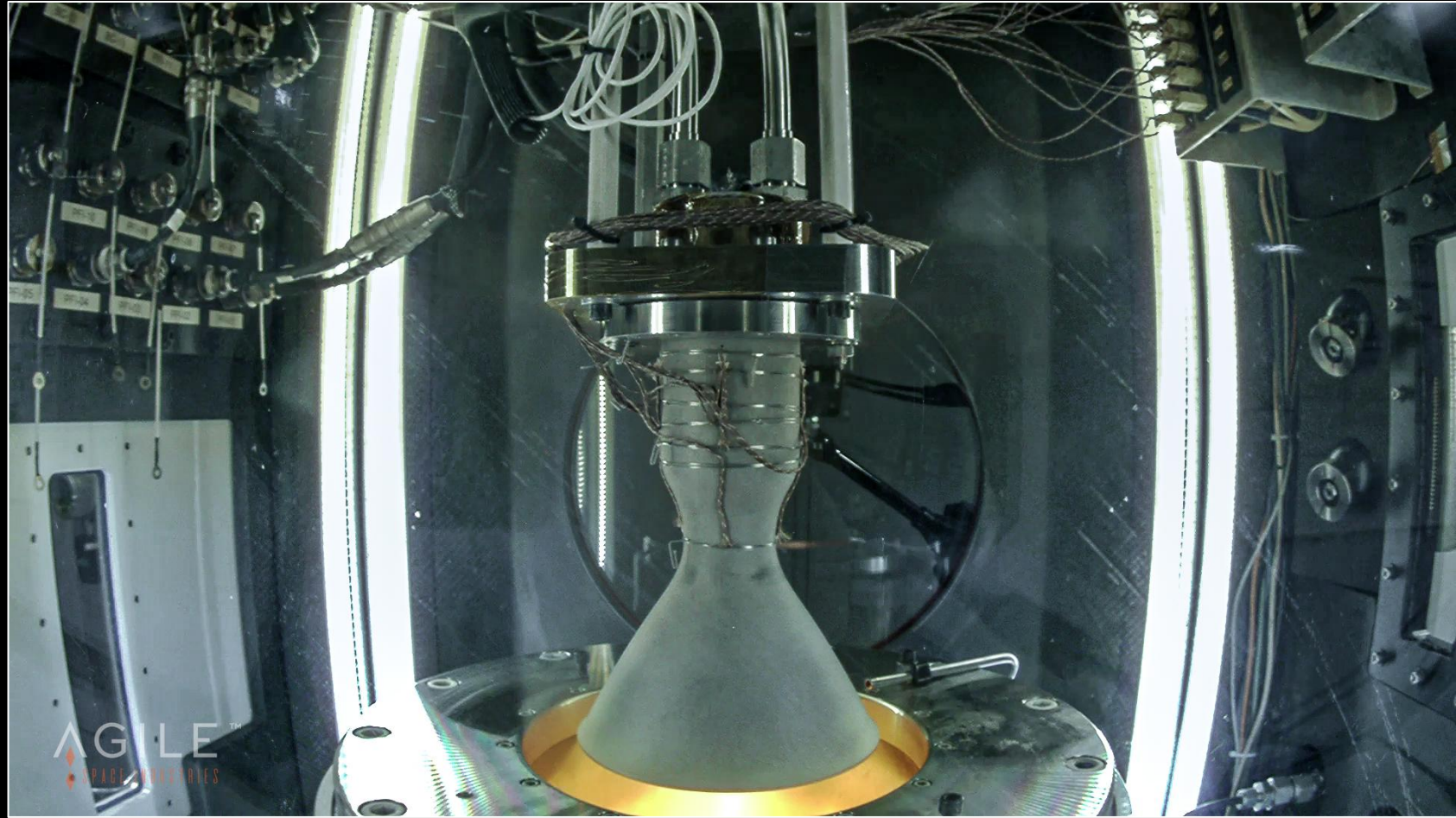
(1) Critical Design Review (CDR): 詳細設計審査会。製造と試験の詳細設計と検証計画が適正かを、これまでに実施した施策評価、熱構造特性の評価、電気機械設計等の評価を活用して確認する審査会で、当社の開発における重要マイルストーン



Agileと共同開発中のVoidRunnerの写真



VoidRunnerが真空チャンバー（真空と熱環境を模擬できる環境）内に設置され、データ収集のためチャンバーに接続された配線が取り付けられている様子



米国コロラド州デュランゴで実施した、VoidRunnerの燃焼試験の様子

# 2027年 Mission4

## ミッション全体像

- **2027年<sup>(1)</sup>**に打上げ予定
- **宇宙戦略基金（第1期）採択テーマが初のペイロードに確定**
- SBIR制度<sup>(2)(3)</sup>の最大額<sup>(4)</sup>となる**120億円の補助金**により開発費用の一部を確保（25/3期中の業外収益への計上は結果的に限定的だが、26/3期以降は大幅に拡大予定）

## ペイロード顧客 営業進行中

総契約金額:

今後確定

新規獲得

中核的連携機関として参画する研究開発課題が

**JAXA**  
**「宇宙戦略基金」**

に採択

## 使用するランダー等

PDR<sup>(4)</sup>進行中

### Series 3ランダー<sup>(5)</sup>

#### サイズ

高さ約3.6m、  
幅約3.3m  
(着陸脚を広げた状態)

#### 重量

約1,000kg  
(Dry: 無燃料時)

#### ペイロード積載

可能容量  
最大数百kg



(1) ミッションスケジュールの変更により、2025年3期Q3より当社4番目のミッションとして位置付け。2025/5/9現在で想定しているミッション及びスケジュールであり、今後変更となる可能性がございます  
 (2) 経済産業省より採択。最低100kgのペイロードを月面輸送出来るランダーを開発し、2027年中に打上げることが要件  
 (3) 本補助金は一括受領ではなくSeries 3ランダーの開発支出にあわせて受領し、中間検査を行った上で営業外収益として計上されるもの

(4) Preliminary Design Review (PDR): 基本設計審査会。仕様値に対する設計結果、設計検証計画の実現性を確認する審査会で、当社のランダー開発における重要マイルストーン  
 (5) 今後変更の可能性がある仮称。画像のデザインは今後変更の可能性があります

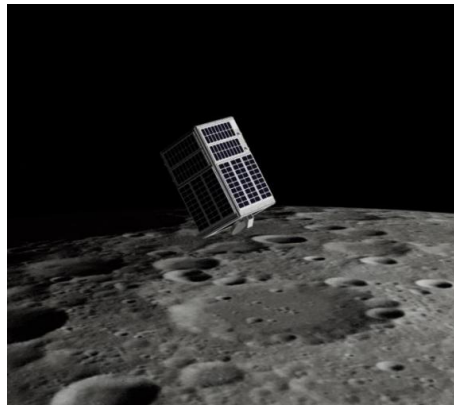
2027年

営業進捗

# Mission4

当社が中核的役割を担う研究開発課題が第1期 JAXA 「宇宙戦略基金」 に採択！

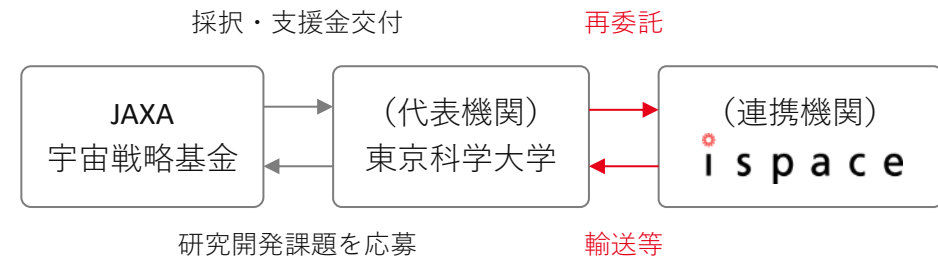
## 採択された研究開発課題について



(左上図) 月低軌道で観測を行う衛星のイメージ (出典: 東京科学大学/情報通信研究機構)

テラヘルツ波センサを用いた広域月面探査により、地下数十cmまでの水氷や金属資源の分布・存在量の把握に役立つ情報の取得を主な目的とした研究開発課題

## 委託契約関係 (予定)



ispaceの役割:

当研究課題実証のための小型衛星を月周回上に輸送する必要があり、当社がその衛星の開発及び打上げ輸送と運用を担う予定

- JAXA 「宇宙戦略基金」 第1期の技術開発テーマ「月面の水資源探査技術（センシング技術）の開発・実証」に、「テラヘルツ波リモートセンシング衛星による月地下浅部の資源探索」が採択。当社は、**衛星開発及びその打上げ輸送と運用という中核的役割**を連携機関として担う予定
- 今後数か月を目途に、東京科学大学との間で委託契約を締結予定であるため、現段階では当社の受領金額は未確定。当委託契約の締結を決議次第、詳細を開示予定

2027年

# Mission4

開発進捗

振動試験が完了。ミッション3で生じたエンジン部材の納品遅延がミッション4のスケジュールに与える影響については精査中



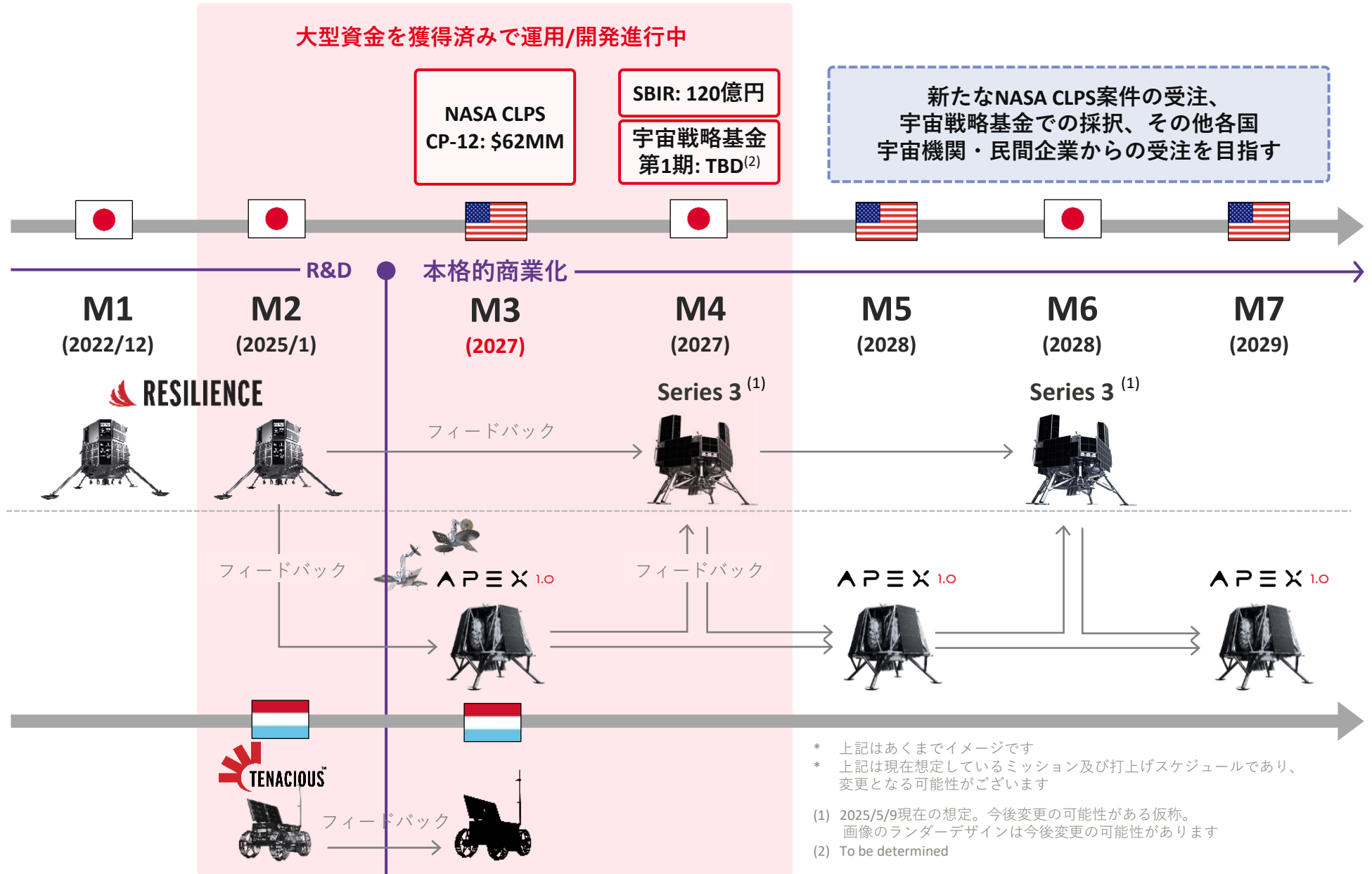
## 熱構造モデルでの振動試験が完了

- 熱構造モデル（STM: Structural Thermal Model）を用いた、振動試験（打上げロケットの激しい振動等に耐えるかを検証するもの）が完了
- 仮称Series 3ランダーにおいても、ミッション3のAPEX 1.0ランダーで使用するエンジンと同様のものを使用予定であるが、当部材の納品遅延がミッション4以降のスケジュールに与える影響は現在精査中

# Future Missions

## Point

- ミッション3において、発注先のエンジンの納品遅延により、打上げ時期を2026年から2027年へ約1年後ろ倒し
- 当納品遅延がミッション4以降のスケジュールに与える影響を現在精査中
- 日米で並行するランダー開発では、相互のフィードバック・サイクルを回し、一貫したランダークオリティの維持向上を担保

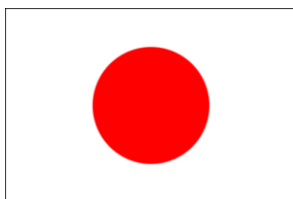


\* 上記はあくまでイメージです  
 \* 上記は現在想定しているミッション及び打上げスケジュールであり、変更となる可能性があります

(1) 2025/5/9現在の想定。今後変更の可能性がある仮称。画像のランダーデザインは今後変更の可能性があります  
 (2) To be determined

# Future Missions

各国政府による民間宇宙開発支援の動きが引き続き加速する傾向



**JAXA**  
宇宙戦略基金

宇宙戦略基金 第2期での採択を目指す

獲得済み日本政府案件

- 宇宙戦略基金 第1期：今後確定予定
- SBIR補助金：120億円

公募されることが発表済みの案件

- 宇宙戦略基金 第2期「月極域における高精度着陸技術」：200億円



**NASA**  
CLPS<sup>(1)</sup> program

新たなCLPS案件の獲得を目指す

獲得済み米国政府案件

- CLPS task order CP-12：88億円<sup>(2)</sup>

公募されることが発表済みの案件

- CLPS task order CS-6
- CLPS task order CT-4
- CLPS task order CP-32



**ESA/LSA**

ローバー開発への継続的な支援獲得を目指す

獲得済み欧州政府案件

- LuxIMPULSE<sup>(3)</sup>：9億円<sup>(4)</sup>

獲得を目指す将来案件<sup>(1)</sup>

- LuxIMPULSE PIE<sup>(5)</sup> フェーズ：金額未確定
- 新たなローバー受託開発：金額未確定

(1) Commercial Lunar Payload Services。商業月面輸送サービス

(2) \$62MMを2025/4末時点のTTMレートを使用し円換算。小数点以下切り捨て

(3) ルクセンブルク政府の施策である「LuxIMPULSEプログラム」。当社欧州法人では、当支援を受けて、マイク

ロローバーの開発を行っている

(4) €5.8MMを2025/4末時点のTTMレートを使用し円換算。小数点以下切り捨て

(5) LuxIMPULSEの後続フェーズとなるPolar Ice Explorer（極域氷探査）

# Future Missions

## 宇宙戦略基金 第2期では高精度着陸技術や月面インフラ構築技術も公募テーマに

### 宇宙戦略基金 第二期 技術開発テーマ（文部科学省分）一覧

令和6年度補正予算にてJAXAに造成された宇宙戦略基金（文部科学省分：1,550億円）を活用し、宇宙分野への関与・裾野拡大が特に期待できる技術開発の内容を、当面の事業実施に必要な支援規模、期間等とあわせ、第二期の技術開発テーマとして設定（全13テーマ）。

#### 輸送

- ◆ スマート射場の実現に向けた基盤システム技術  
総額：85億円程度，支援期間（最長）：5年程度
- ◆ 有人宇宙輸送システムにおける安全確保の基盤技術  
総額：100億円程度，支援期間（最長）：3年程度

#### 衛星等

##### 衛星

- ◆ 次世代地球観測衛星に向けた観測機能高度化技術  
総額：100億円程度，支援期間（最長）：6年程度
- ◆ 地球環境衛星データ利用の加速に向けた先端技術  
総額：40億円程度，支援期間（最長）：6年程度

##### 軌道上サービス

- ◆ 空間自在移動の実現に向けた技術  
総額：300億円程度，支援期間（最長）：6年程度
- ◆ 空間自在利用の実現に向けた技術  
総額：165億円程度，支援期間（最長）：5年程度

#### 探査等

##### 地球低軌道利用

- ◆ 軌道上データセンター構築技術  
総額：135億円程度，支援期間（最長）：5年程度
- ◆ 船外利用効率化技術  
総額：65億円程度，支援期間（最長）：5年程度
- ◆ 高頻度物資回収システム技術  
総額：25億円程度，支援期間（最長）：3年程度

##### 月面開発

- ◆ 月面インフラ構築に資する要素技術  
総額：80億円程度，支援期間（最長）：5年程度
- ◆ 月極域における高精度着陸技術  
総額：200億円程度，支援期間（最長）：4年程度

#### 分野共通

- ◆ 宇宙転用・新産業シーズ創出拠点  
総額：110億円程度，支援期間（最長）：5年程度
- ◆ SX中核領域発展研究  
総額：100億円程度，支援期間（最長）：3年程度

※ 支援期間中、3年程度でステージゲート評価等を実施

このほか、本基金事業の管理費（45億円程度）を含む。

1

### 高精度着陸技術が第2期の文科省テーマに

- 2024年から始まった、10年間で総額1兆円のJAXA宇宙戦略基金は、第1期と第2期とでそれぞれ予算3,000億円が割り当てられた
- 2025/3に公表された、文科省の第2期のテーマには、**高精度着陸技術を含む合計280億円の「月面開発」**が含まれる（左図、赤枠参照）

## Future Missions

KDDI及び高砂熱学工業それぞれと、シスルナ経済圏<sup>(1)</sup>構築に重要な計画の推進について合意

# KDDI

が採択された宇宙戦略基金テーマ  
に関する調査を受託



# 高砂熱学

### 当社がKDDIより月面モバイル通信に関する調査を受託

- 宇宙戦略基金 第1期の公募テーマ「月-地球間通信システム開発・実証 (FS)」において、代表機関であるKDDIより、月面モバイル通信に関する調査を受託
- 今後、**大きな発展が期待される月-地球間の通信**は、当社が目指すシスルナ経済圏の構築には欠かすことの出来ないビジネス。その実現に向けて、**当社がKDDIの本技術検討を支援**

### 高砂熱学工業と水資源採掘へ向け、新たなMOU<sup>(2)</sup>を締結

- HAKUTO-R<sup>(3)</sup>のコーポレートパートナーであり、ミッション2でのペイロード顧客でもある高砂熱学工業と、将来の月面環境における水採取技術「サーマルマイニング技術」の月面実証に向けた計画検討に関するMOU<sup>(2)</sup>を締結
- ミッション2での水の電気分解成功を共に目指すだけでなく、**次のステップとなる水資源採掘の実証**に向けても高砂熱学工業との協力体制を整えていく

(1) シスルナ経済圏とは、地球と月における新たな経済基盤であり、持続可能な社会の実現を支える新たな市場や技術、インフラを含む広範な概念

(2) Memorandum of understanding。基本合意書  
(3) 当社のミッション1及びミッション2を総称する、民間月面探査プログラム



## Future Missions

米国法人がRedwire社と商業月面探査ミッションの共同推進に関するMOUを締結。  
Redwire社と共に将来のCLPS受注も目指す計画



ispace-U.S. CEO エリザベス・クリスト (左) と  
Redwire Corporation, President of Civil and International Space マイク・ゴールド氏 (右)



- 2025年4月、当社米国法人は、CLPSへの入札資格を有する米国の宇宙インフラ企業 Redwireとの間で**商業月面探査ミッションの共同推進に関して合意**。今後2025年から2026年にかけて公募開始予定の3つのCLPS案件 (P.22ご参照) についても、両社で協働して受注獲得を目指す予定
- 他、新CEOの下、ルナ・サイエンス・アドバイザー・ボードの新設など米国法人の体制強化が進む

\* 本件の詳細は、2025/4/9のプレスリリース「ispace-U.S.、米 Redwire 社と商業月面探査ミッションの共同推進に関する覚書を締結」をご参照ください

## Future Missions

ルクセンブルク首相が当社管制室を訪問し、首脳会談で日本との更なる協力体制について言及



ルクセンブルク政府 フリーデン首相（中央右手）、  
ispace 代表取締役CEO & Founder 袴田武史（フリーデン首相の右手）

日・ルクセンブルク間の更なる協力体制強化に期待

- 2025/4、ルクセンブルクのフリーデン首相が、LuxIMPULSEプログラム<sup>(1)</sup>の下、当社欧州法人が受託開発したTENACIOUSローバーの進捗状況を視察
- 月に向け順調に飛行中である旨を報告し、今後の更なる連携についても対談
- その後の日・ルクセンブルク首脳会談では、当社についても触れられ、2国間の**宇宙分野での更なる協力体制**について言及がなされた<sup>(2)</sup>
- 事業環境面での追い風を受け、欧州法人で進めるローバー開発へ引き続きルクセンブルクをはじめとする欧州の宇宙機関からの開発受託を目指す

(1) ルクセンブルク政府の施策であるプログラム。当社欧州法人では、当支援を受けて、マイクロローバーの開発を行っている

(2) [https://www.mofa.go.jp/mofaj/erp/we/lu/pageit\\_000001\\_01848.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/erp/we/lu/pageit_000001_01848.html)

# IR Activity

上場2期目となる25/3期は、よりIR活動にも注力。引き続き本質的な事業成長とともに、積極的なIR活動に尽力



## ゴール

新規性が高く馴染みが薄い宇宙・月面事業に対して、より一層身近に感じていただけるような機会を提供すること



## 結果

### 株主数の増加

多くの株主様にご支援いただき、足許の1年間で株主様が2.3万人増加



### 外部評価

- ・ **金融庁 好事例集 選出** ([任意開示リンク](#))
- ・ 東証グロース市場 Core指数構成銘柄 選定 ([任意開示リンク](#))
- ・ アナリストカバレッジ\*：野村證券 / いちよし経済研究所 / SBI証券 / フィリップ証券



## 実施内容 (2024/4~2025/3)

### 機関投資家向け カンファレンス

- ・ 野村證券主催
- ・ Jefferies証券主催
- ・ SBI証券主催
- ・ みずほ証券主催

### 機関投資家向け 1on1実施件数

100件以上

### 個人投資家向け 説明会参加回数

\* 2024/9~対応スタート

9回

### お問い合わせ 対応件数

100件以上

### その他IR活動

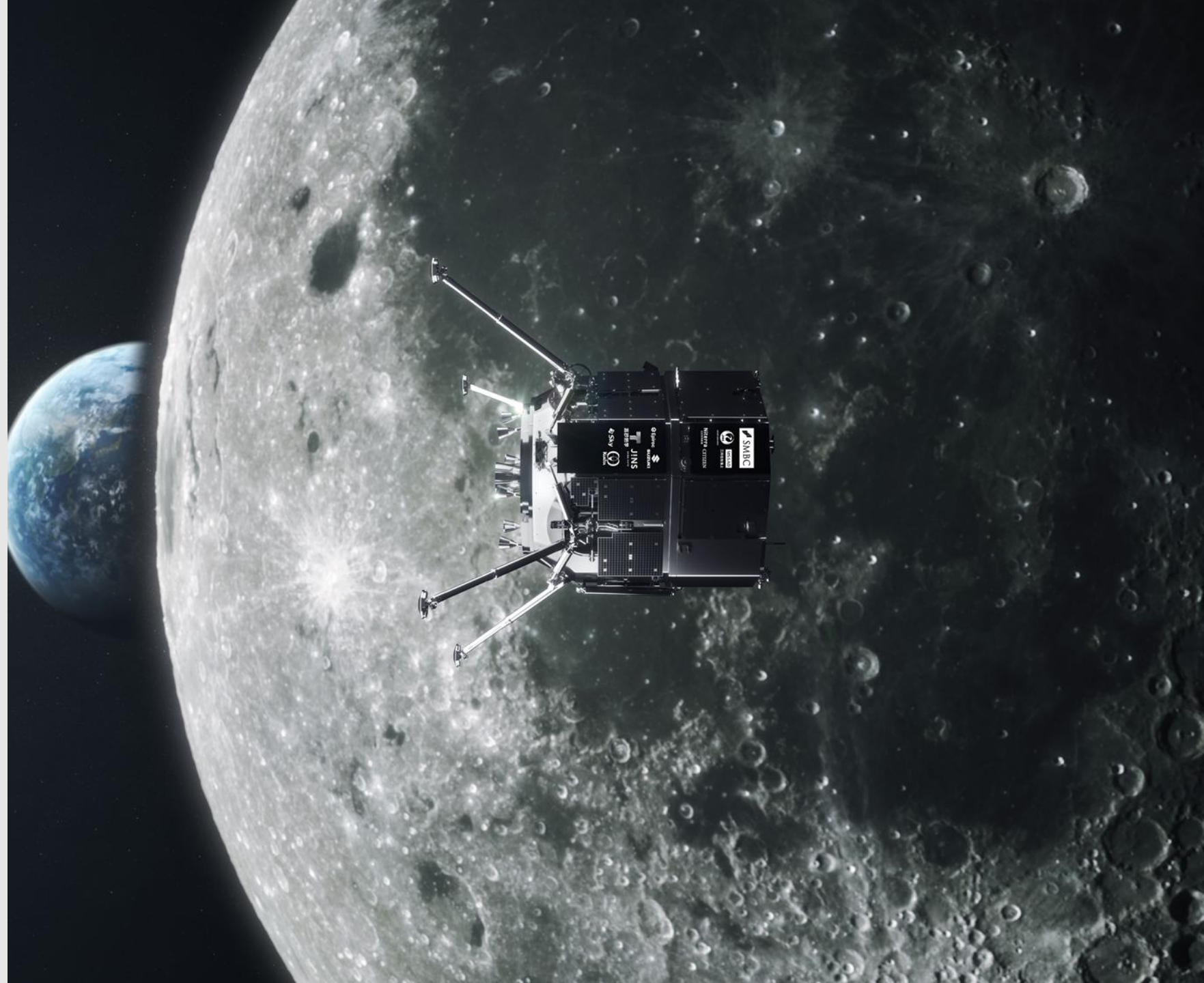
- ・ 日英同時開示
- ・ 日英決算説明動画
- ・ 株主優待制度
- ・ 有識者との対談動画
- ・ SNSの活用
- ・ 会社公式  / IR担当者

# 02

## 財務ハイライト

### コンテンツ：

- 2025/3期 損益計算書
- サービス別売上高推移
- 2025/3期 貸借対照表
- 2025/3期 キャッシュフロー計算書
- 2026/3期 業績予想
- 当社KPI
- ビジネスモデルイメージ



## 多少の変動要因はありつつも、売上高・各段階利益は概ね業績予想通りに着地

(単位：百万円)	2025年3月期	2025年3月期		2024年3月期（前期）	
	通期実績	通期予想	増減率	通期実績	増減率
売上高	4,743	4,467	6.2%	2,357	101.2%
売上総利益	2,244	2,325	△3.5%	928	141.8%
売上総利益率	47.3%	52.0%	-	39.4%	-
販売管理費	12,039	12,197	△1.3%	6,429	87.2%
営業損益	△9,795	△9,872	-	△5,501	-
経常損益	△11,334	△10,774	-	△6,097	-
当期純損益	△11,945	△10,763	-	△2,366	-

### Point: 通期予想との比較

- **売上高：**  
売上高は、2025年2月に発表した通期連結業績予想（以下、「業績予想」）をやや上回る水準で着地。ミッション3に関して、年度終盤に計画を上回る費用算入が進んだため（翌年度分の先取り）原価回収基準に基づく売上高が増加
- **売上総利益：**  
売上総利益は、主に欧州子会社におけるローバー開発受託に関する原価計上の増加等により、業績予想対比で微減となった
- **営業損益：**  
販管費が計画通りに着地したことにより、営業利益は概ね業績予想と同水準に
- **当期純損益：**  
業績予想と比べて、約11億円の減益となった。第4四半期に発生した円高の影響による為替差損（△約11億円）が主な要因

## ミッション2の打上げ完了に伴う研究開発費の計上及びグローバルな生産体制の増強に伴う人件費増加により、販売管理費は前年同期比で増加

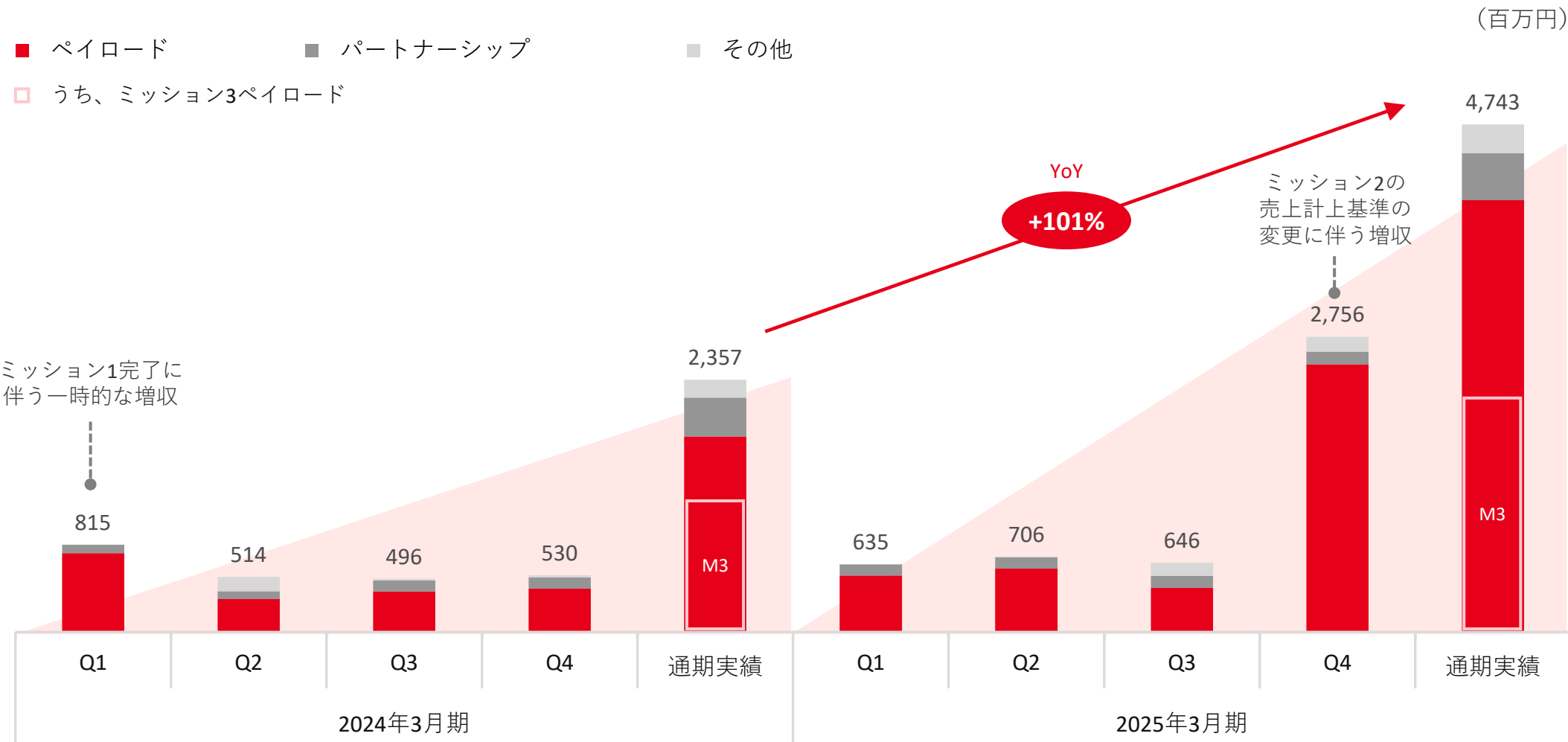
(単位：百万円)	2025年3月期	2024年3月期（前期）	
	通期実績	通期実績	増減率
研究開発費	7,730	3,834	101.6%
給料及び手当	1,522	997	52.6%
その他	2,786	1,598	74.3%
販売管理費の合計	12,039	6,429	87.2%

### Point: 前年同期との比較

- **研究開発費：**  
ミッション2の打上げ実施に伴う一括費用計上、ミッション3及びミッション4の開発進捗により、前年同期比で増加
- **給与及び手当：**  
グループ全体の期中平均従業員数の増加、海外子会社の従業員数割合の上昇等により、前年同期比で給与及び手当が増加
- **その他：**  
主に、新たな株式報酬制度<sup>(1)</sup>に係る株式報酬費用の増加、ミッション2の保険料支払い等に伴い、前年同期比で増加

(1) 本株式報酬の詳細については、2024/12/13開示の「譲渡制限付株式ユニット（RSU）に基づく新株式発行に関するお知らせ」をご参照ください

2025年3月期はミッション3のペイロード売上が前年度を上回る水準で推移。更にQ4に会計基準の変更によりミッション2のペイロード売上が大幅に前倒しで計上されたことで、売上高は前年度対比で大幅に増加



## ミッション3の進捗により固定資産が増加。長期借入金及び資本増強により財務健全性を維持

(単位：百万円)	2025年3月期	2024年3月期	
	実績	実績	増減率
流動資産合計	19,067	21,784	△12.5%
内 現金及び預金 <sup>(1)</sup>	13,117	16,832	△22.1%
内 短期前渡金	3,620	4,228	△14.4%
固定資産合計	8,121	5,248	54.7%
内 有形固定資産	4,859	2,462	97.3%
内 長期前渡金	2,997	2,560	17.1%
総資産合計	27,189	27,033	0.6%
流動負債合計	3,854	10,503	△63.3%
内 前受金	2,695	3,190	△15.5%
内 短期借入金	0	5,980	△100.0%
固定負債合計	16,326	6,784	140.6%
内 長期借入金	16,096	6,538	146.2%
純資産合計	7,007	9,745	△28.1%
(有利子負債)	16,096	12,518	28.6%

### Point: 前期末との比較

- 資産：
  - ・ 現預金：安定的な現預金水準を維持
  - ・ 前渡金（短期）：主にミッション2の打上げに関する前渡金が費用化したこと等により、前期末対比で減少
  - ・ 有形固定資産：ミッション3で使用するリレー衛星の開発進捗に伴い、前期末対比で増加
- 負債：
  - ・ 前受金：特にミッション2関連の売上計上が進捗したことにより前期末対比で減少
  - ・ 有利子負債：主に2024年7月のシンジケートローン（100億円）により短期借入金から長期借入金への転換を進める中、有利子負債残高が増加
- 純資産：事業赤字により純資産が減少する中、2024年10月発表のエクイティ・プログラム<sup>(2)</sup>を通じて総額約70億円の増資を実施

(1) 2024年3月期の現金及び預金には、引出制限付預金2,517百万が含まれています。

(2) 本件の詳細については、2024/10/11開示の「株式及び新株予約権発行プログラム設定契約締結に係る発行登録並びに第三者割当による新株式及び新株予約権の発行に関するお知らせ」をご参照ください



本格的な商業化フェーズとなるミッション3及び4の開発進捗に伴い、フリー・キャッシュフローのマイナス幅が拡大。借入金及び資本増強を通じて適時に資金調達を実施の上、安定的な現預金残高を維持

(単位：百万円)	2025年3月期	2024年3月期
	通期実績	通期実績
営業キャッシュフロー合計	△12,049	△ 5,024
投資キャッシュフロー合計	△2,671	△ 2,062
フリー・キャッシュフロー	△14,720	△ 7,086
財務キャッシュフロー合計	10,423	20,366
内 株式発行による変動	6,985	14,822
内 長期借入による変動	10,952	1,322
内 短期借入による変動	△7,704	4,416
現金等の換算差額	582	171
現金等の増減額	△3,715	13,450
現金等の期末残高 <sup>(1)</sup>	13,117	16,832

## Point

- **営業キャッシュフロー：**  
ミッション3及びミッション4の開発進捗により営業キャッシュフローのマイナス幅は拡大
- **投資キャッシュフロー：**  
ミッション3で使用するリレー衛星への投資により増加
- **財務キャッシュフロー：**  
主に2024年7月のシンジケートローン（100億円）により短期借入金から長期借入金への転換を進める中、有利子負債残高が増加。また、2024年10月発表のエクイティ・プログラム<sup>(2)</sup>を通じて総額約70億円の増資を実施

(1) 2024年3月期の現金等の期末残高には、引出制限付預金2,517百万円が含まれています。

(2) 本件の詳細については、2024/10/11開示の「株式及び新株予約権発行プログラム設定契約締結に係る発行登録並びに第三者割当による新株式及び新株予約権の発行に関するお知らせ」をご参照ください

## 2026年3月期の主要なテーマ

### 日本法人

- **Mission 2**：RESILIENCEランダーの月面着陸、TENACIOUSローバーの月面活動及びNASAとの資源取引成立を目指す
- **Mission 4**：ミッション2での知見を仮称Series 3ランダーの開発に活かす。宇宙戦略基金 第1期に係るペイロード輸送を皮切りに、営業活動も本格化を見込む
- **宇宙戦略基金**：引き続き、宇宙戦略基金 第2期以降のテーマに採択されることを目指す

### 米国法人

- **Mission 3**：今年冬に新エンジンを用いたCDRを完了させ、本格的なAPEX 1.0ランダーの組立開始を見込む。スケジュール延伸も踏まえ、残りのペイロード重量を埋めるべく、引き続き顧客獲得に注力
- **Mission 5**：米国側でのプライム・カスタマーの獲得と量産型のAPEX 1.0ランダーの開発始動を目指す
- **NASA CLPS**：引き続き、NASAによるCLPS需要の獲得に向け、新たにMOUを締結したRedwireとの協業を進める計画

### 欧州法人

- **ローバー開発**：欧州宇宙機関からのローバー開発受託を基に、ミッション3以降で使用するマイクロローバー及びより大型化したローバーの開発も進める予定。既存の受託開発契約の後続フェーズ獲得も目指す

### 全社

- **グローバル連携**：引き続き、グローバル各地域での事業開発活動の拡大と3拠点の連携強化を目指す。グローバルなマクロ環境が不安定な中、3拠点が連携する当社のユニークな強みを活かす
- **財務強化**：持続的に複数の月面着陸ミッションを3拠点で並行して進めるためにも、安定的な資金の確保に加え、資本バッファの強化にも引き続き注力

2026年3月期の業績予想は、引き続きミッション3からのペイロード売上が牽引する見込み。ミッション4からの貢献も一部見込まれる他、限定的ながらミッション2及び新ミッション5からの売上貢献も目指す

Point: 2025年3月期実績との比較

(単位：百万円)	2026年3月期	2025年3月期（前期）		
	業績予想	実績	増減率	増減
売上高	6,200	4,743	+30.7%	+1,457
売上総利益	500	2,244	△77.7%	△1,744
売上総利益率	8.1%	47.3%	-	-
販売管理費	12,000	12,039	△0.3%	△39
営業損益	△11,500	△9,795	-	△1,705
経常損益	△8,300	△11,334	-	+3,656
当期純損益	△8,300	△11,945	-	+3,645

● 売上高：

2026年3月期の売上は引き続きミッション3が牽引。宇宙戦略基金第一期に採択された案件を含むミッション4からの売上も一部開始される予定。限定的ながらミッション2及び5からの売上も見込む

● 売上総利益：

2025年3月期は上述の計上基準変更により一時的なミッション2の売上総利益を計上。今期の売上は基本的に原価回収基準での計上を見込むため、売上総利益はごく一部に限定

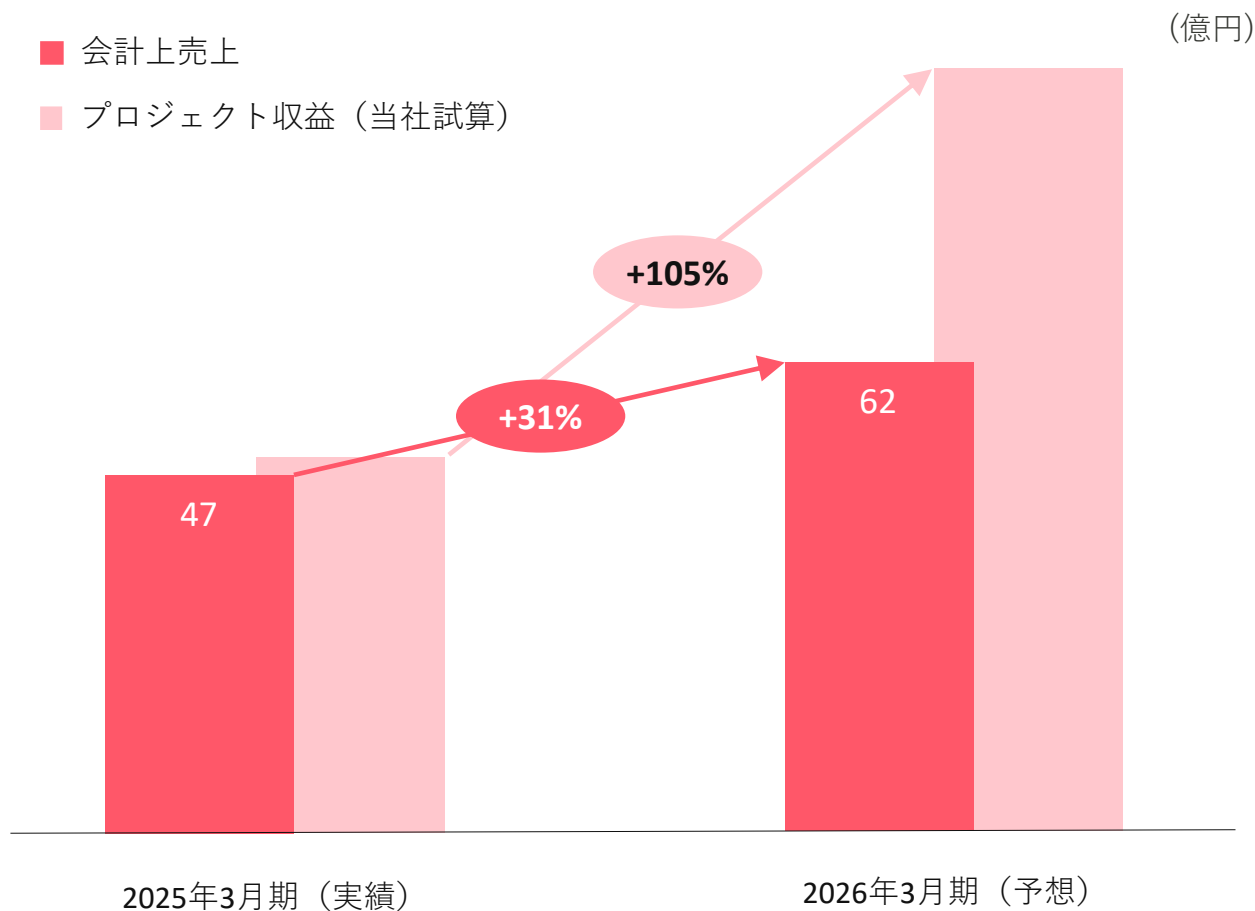
● 営業損益：

2026年3月期は前年度あったミッション2の打上げ費用等の一時費用が発生しない見込みではあるも、ミッション4の費用が販管費として本格支出が開始

● 当期純損益：

ミッション4に関するSBIR補助収入を営業外収入として計上見込みであり、2025年3月期対比で大幅に拡大する予定。このため、当期純損益では改善を見込む

## 売上高にSBIR補助金からの収入を加えた「プロジェクト収益」の試算では、ミッション4の収入本格化により大幅な収益成長を見込む



### Point: 「プロジェクト収益」 (当社試算)

2026年3月期の売上高予想62億円は、2025年3月期対比で約31%の増加、と比較的穏やかな成長に留まる見込み

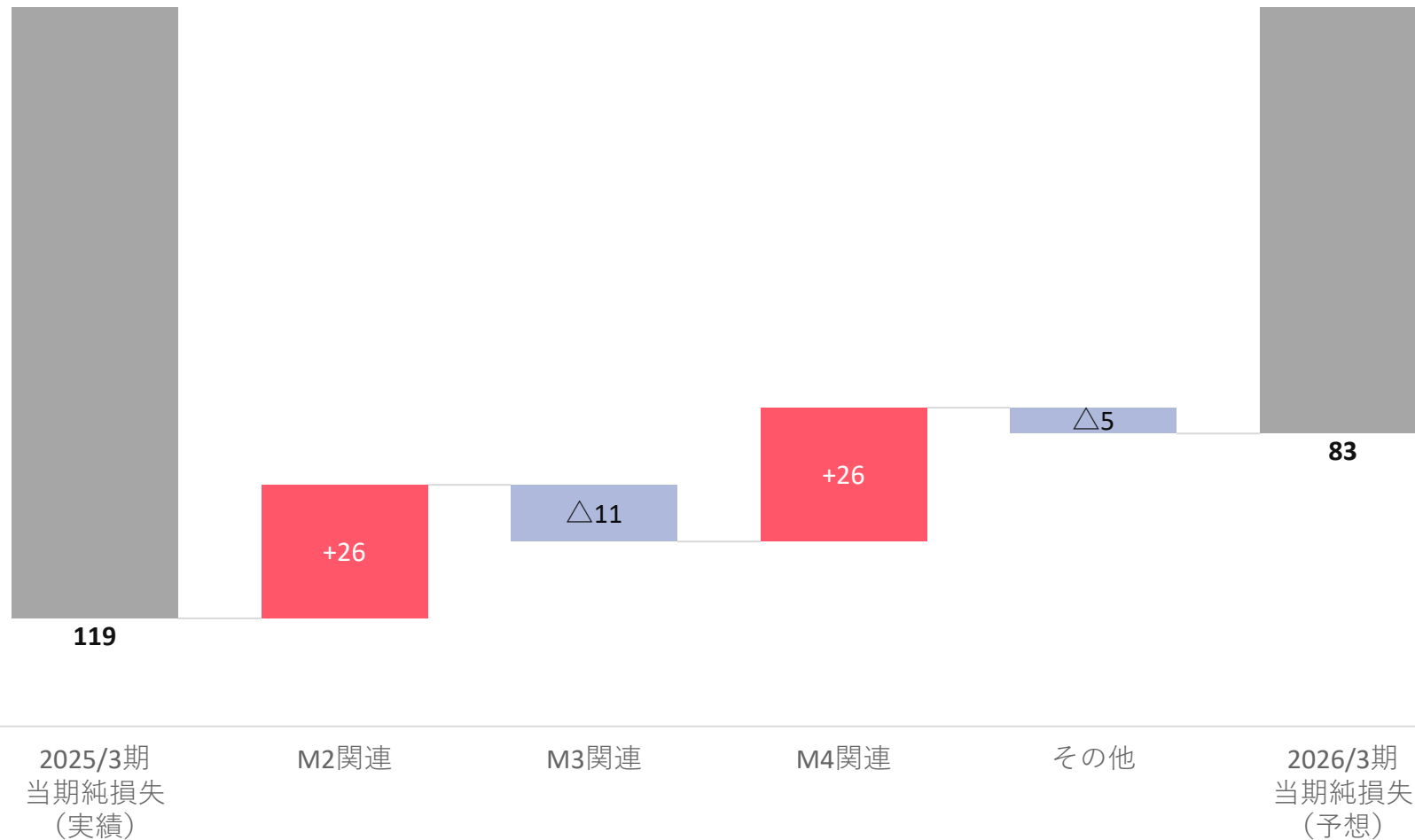
- ミッション3の打上げスケジュールを当初計画の2026年から2027年に変更した影響
- 2026年3月期より本格的な貢献が見込まれるにも関わらず、ミッション4で当社が得るSBIR補助金（総額120億円）は営業外収入として計上され、売上計上されない影響

→ 参考値として、**会計上の売上高にSBIR補助金からの収入を加えた当社試算を「プロジェクト収益」として示した場合、その成長は約倍増**を見込む

→ 「プロジェクト収益」で見た場合、**当社は引き続き、力強い成長を実現する計画**

2026年3月期は損失改善見込み。2025年3月期中にミッション2の支出の大部分は完了し、ミッション4のSBIR補助金収入も本格化の見込み。今後も大型案件の獲得により純損益の改善を目指す

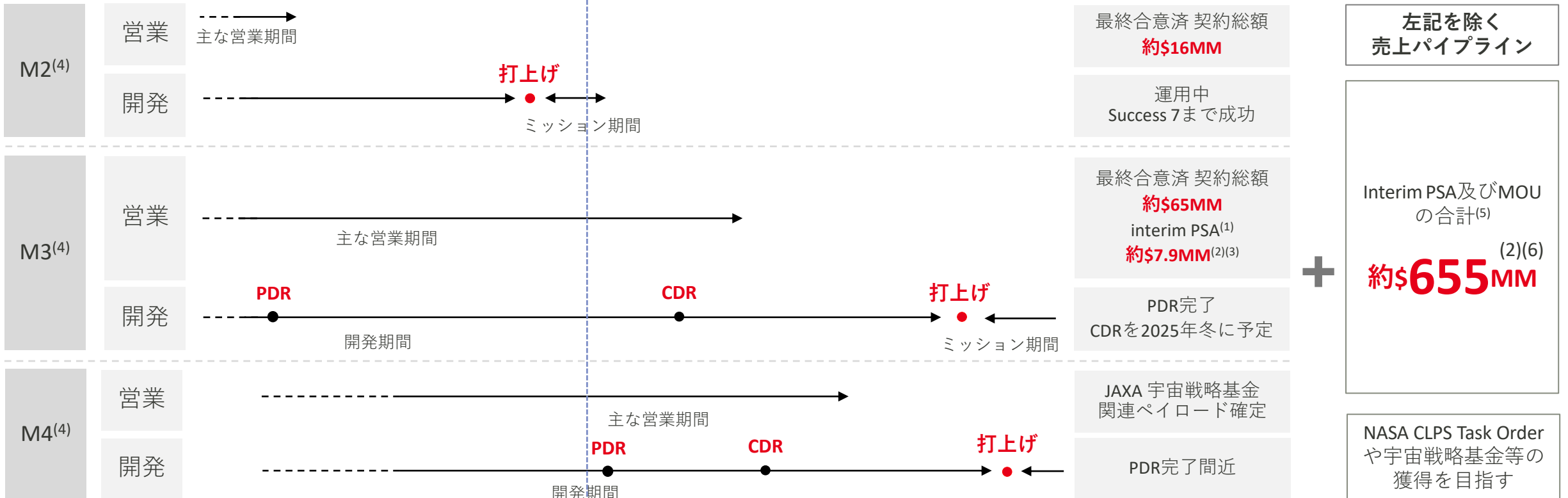
(億円)



#### Point: 2025年3月期実績との比較

- ミッション2は2025年3月期に打上げ費を含め、大部分の費用が発生済であり、今期の費用発生は僅少
- ミッション3の一部は研究開発費として計上され、更なる開発進捗に伴い利益にマイナス影響
- ミッション4の開発費の大部分は補助金収入で相殺されるも、費用計上と補助金受領にはタイムラグがあり、その差分がプラス影響

# ミッション3のCDR及び打上げ時期をアップデート。新たに締結したMOU等の金額はQoQで約\$260MM増加。引き続き売上パイプラインからの契約化及び新規PSAの獲得を目指す



(1) Interim Payload Service Agreement ペイロードサービス中間契約：最終合意となるPSA契約を締結するための交渉の前提となる文書  
 (2) 2025/5/9時点  
 (3) ミッション4以降となり得る金額を含む。小数点第2位以下切り捨て  
 (4) ミッション2以降は現在の想定スケジュール  
 (5) 小数点以下切り捨て。上記のMOU及びinterim PSAは法的拘束力を有しないものであり、これらのinterim PSAに基づき法的拘束力のある契約を

締結できる保証はありません。また、仮に法的拘束力のある契約が締結されたとしても、当該契約に基づく重量及び金額は、本資料に記載された金額と異なる可能性もあります  
 (6) MOU及びInterim PSAの契約総額は、文書に記載された各契約額で集計（小数点以下切り捨て）。価格やペイロード量に幅がある場合は、低い方の数値を適用して契約金額を算出。また、契約書に価格の記載がない場合、弊社が想定する標準サービス価格を適用して契約金額を算出

## ペイロードサービスのビジネスモデルイメージ

イメージであり、変更される可能性があります。また、全ての数値は小数点以下切り捨てとなっています

ランダー  
開発国



ランダー 開発国	ミッション搭載可能ペイロード重量	歩留り率等 <sup>(3)</sup>	顧客のペイロード重量	契約総額 <sup>(4)</sup>
🇯🇵 M1	30kg		12kg	\$10MM
🇯🇵 M2	30kg		11kg	\$16MM
🇺🇸 M3	300kg		95kg (CP-12) 50kg	\$65MM
🇯🇵 M4	500kg	27%	137kg	想定単価 <sup>(5)</sup>
🇺🇸 M5		27%	137kg	
🇯🇵 M6		30%	151kg	
🇺🇸 M7		30%	151kg	
🇯🇵 M8		32%	160kg	
🇺🇸 M9		32%	160kg	
🇯🇵 M10		33%	168kg	

現在

各会計年度に計上されるミッションの売上<sup>(2)</sup>

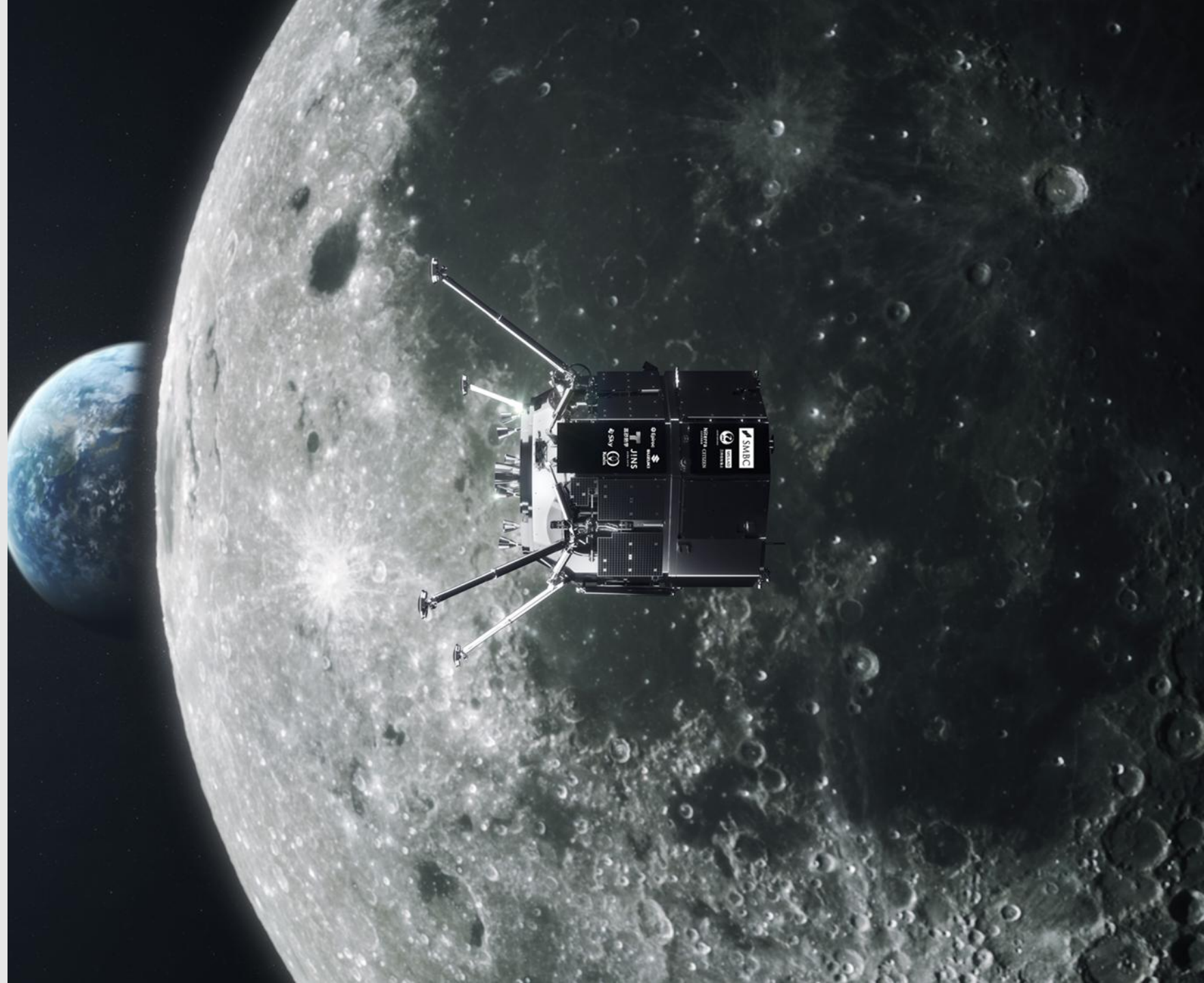
CY2024	CY2025	CY2026	CY2027	CY2028	CY2029
FY2024	FY2025	FY2026	FY2027	FY2028	FY2029

(1) 本資料は、将来のペイロード・サービスに関して、一定の仮定に基づき想定している現時点のイメージであり、ミッションの内容・時期その他の詳細は実際の将来の結果とは異なる可能性があります  
 (2) 2025/5/9時点の打上げ予定に基づきます。このスケジュールは変更される可能性があり、計画通りに進行しない可能性もあります  
 (3) 顧客のペイロード重量が設計上のミッション搭載可能ペイロード重量に占める割合であり、一定程度のバッファを見込んだ値となっています。主に次の3つの要因により制約を受けます。①開発における不確実要因（ランダー側の不確実要因、顧客ペイロード事由の不確実

要因（インターフェース調整等）、②販売成功率（需要及び販売能力の不確実性）③インターナル・ペイロード重量（当社が使用するペイロード重量）  
 (4) ミッション1、2、3については、2025/5/9時点の各PSAに基づく契約金額を記載しています  
 (5) 2025/5/9時点のペイロードの想定単価は約1.5MMドル/kgであり、この想定単価は今後一定程度逡減していくと当社は見込んでいます

# 03

## Message from CEO





月面ミッションが  
当たり前になる世界に  
藤田武史

# MISSION 2

SMBC × HAKUTO-R  
VENTURE MOON



# LANDING

## 2025.6.6. Fri

## 4:24 AM JST\*

i s p a c e

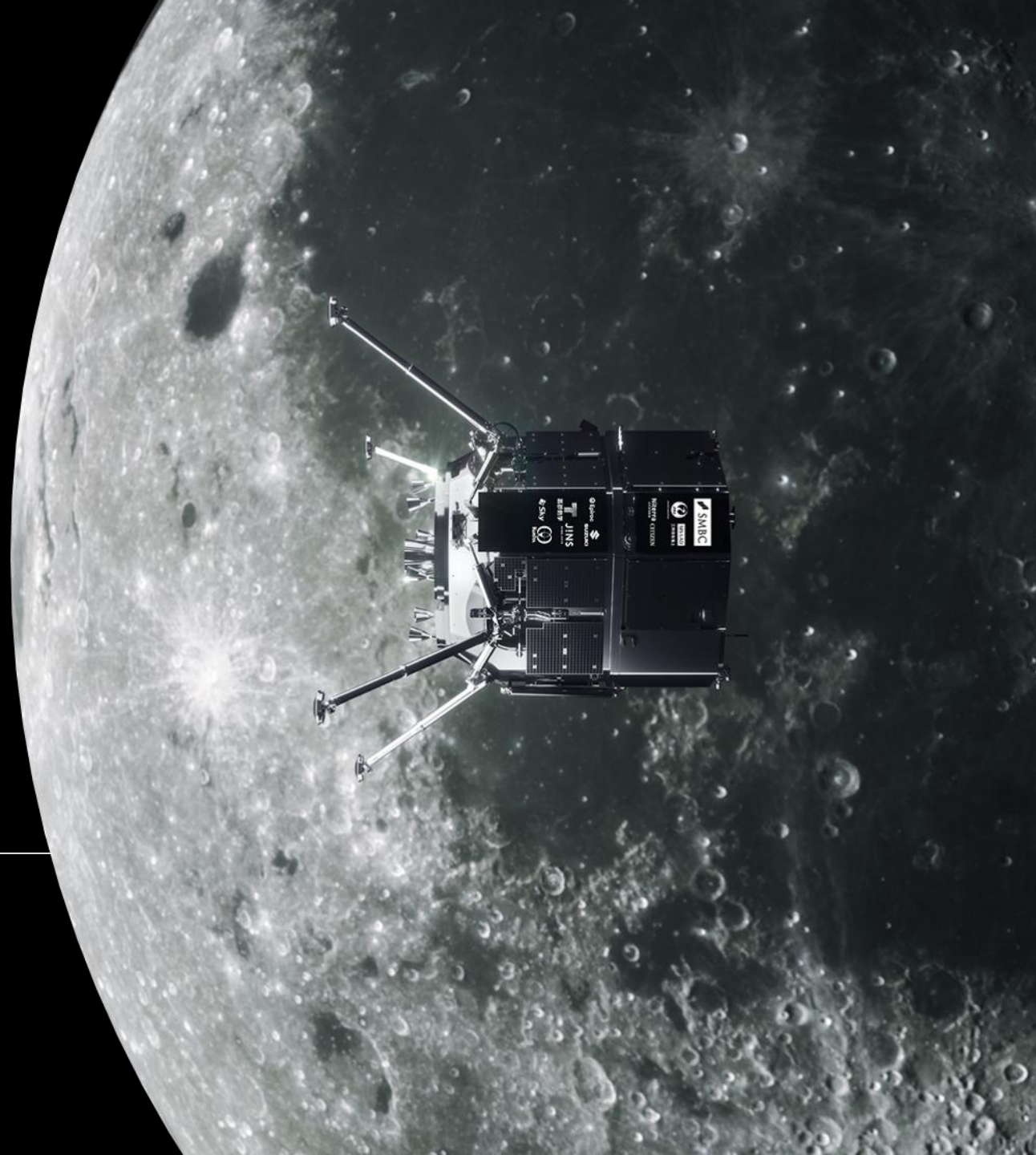
As of May 2025

\*上記日時は運用状況に応じて変更される可能性があります。

ispace

**Never Quit the Lunar Quest**  
私たちは歩み続けます。

IRに関するお問い合わせ: [ir@ispace-inc.com](mailto:ir@ispace-inc.com)

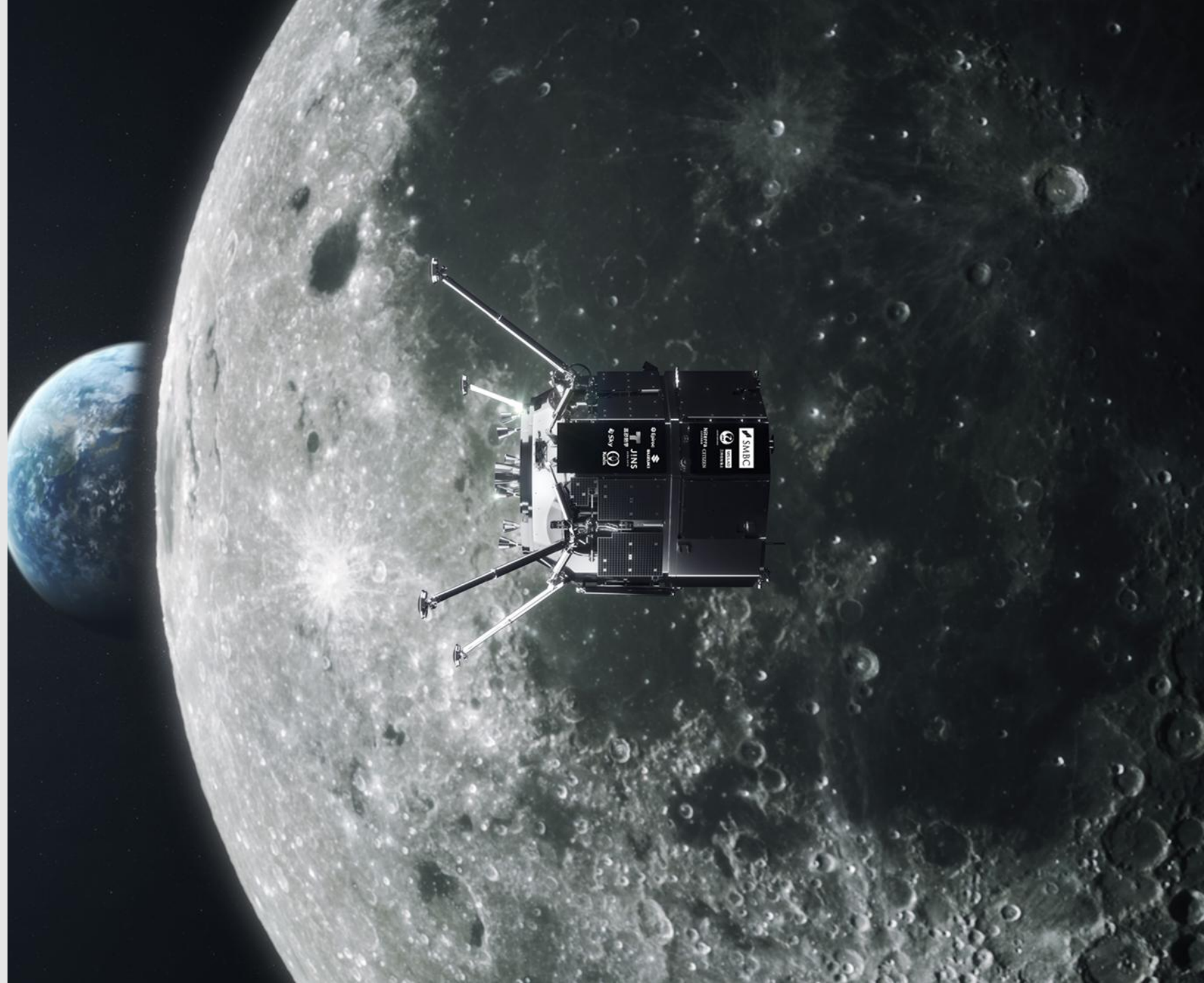


# 04

## Appendix

### コンテンツ：

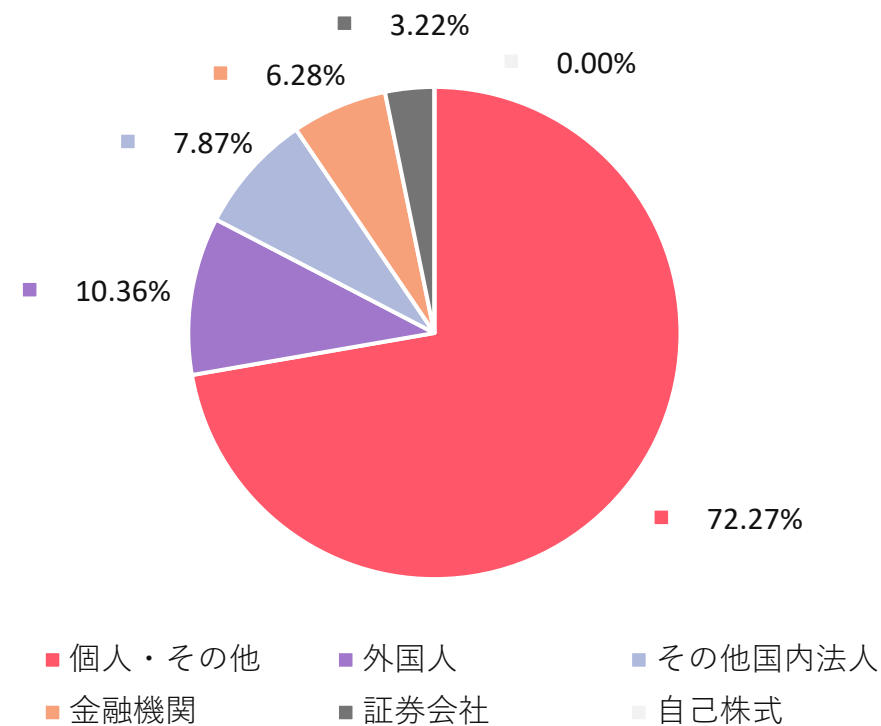
- 株式情報
- 当社の事業概要
- ミッション1について
- 開発KPI
- 営業KPI
- 持続可能なビジネスモデル
- 業績推移
- 用語集



## 株式の状況（2025/3/31現在）

発行済株式総数	105,675,203株
株主総数	81,257名

## 所有者別株式分布



## 大株主（上位10位）

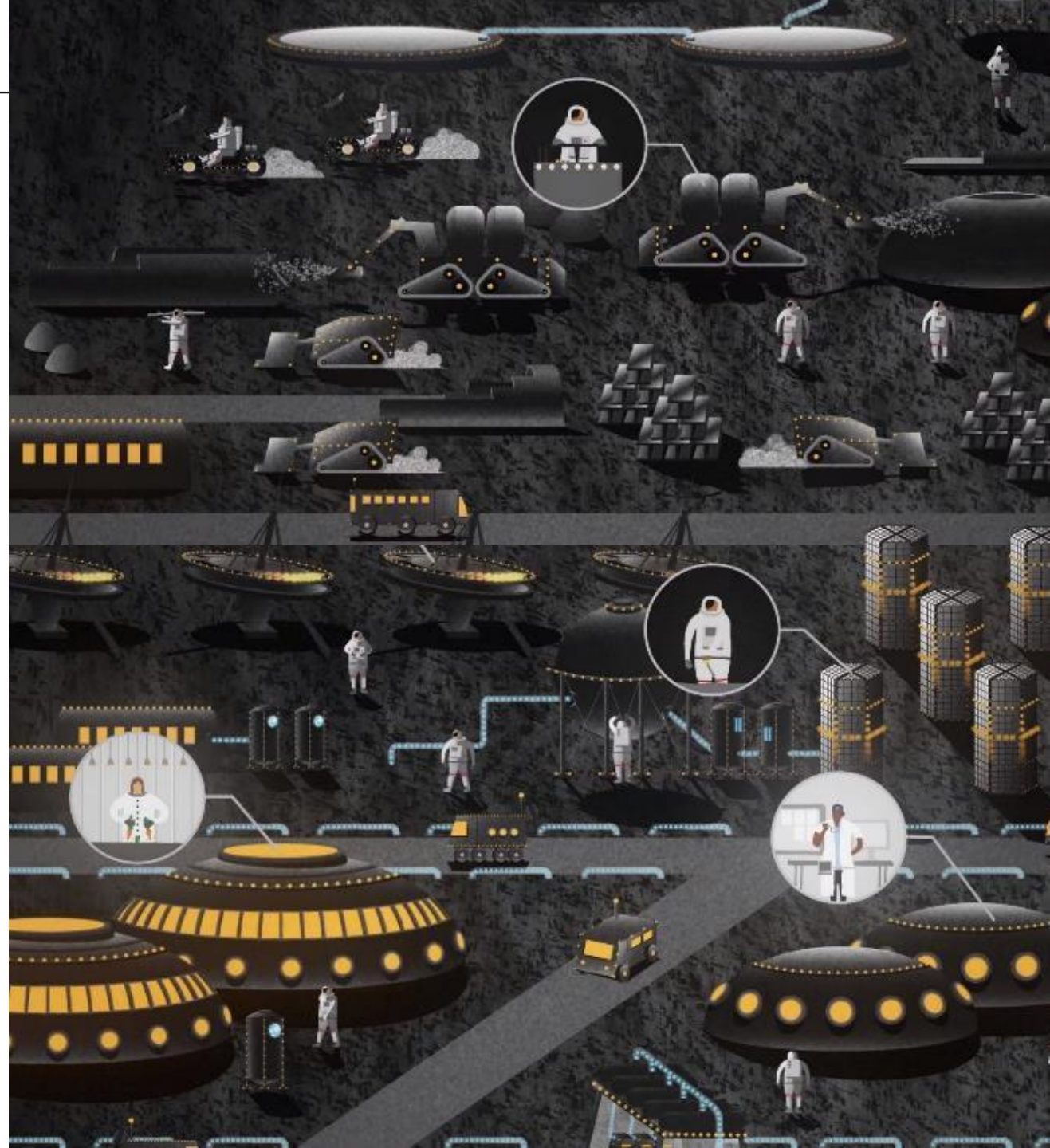
No.	株主名	所有株数（株）	持株比率（%）
1	袴田 武史	9,000,000*	8.516
2	インキュベイトファンド3号投資事業有限責任組合	5,992,580	5.670
3	株式会社日本政策投資銀行	3,495,880	3.308
4	赤浦 徹	2,636,603	2.495
5	IF GROWTH OPPORTUNITY FUND 1, L.P.	2,135,720	2.021
6	三井住友信託銀行株式会社	1,968,500	1.862
7	BOFAS INC SEGREGATION ACCOUNT	1,923,433	1.820
8	楽天証券株式会社	1,612,000	1.525
9	IFSPV1号投資事業組合	1,174,880	1.111
10	吉田 和哉	896,000	0.847

\* 代表取締役CEO 袴田の所有株式と持株比率が半期前（2024/9末時点）から3百万株減少しておりますが、2024/10/11に決議したエクイティ・プログラムにおいて割当先であるCVI Investments, Inc.と締結していた株式貸借契約に基づき、当該割当先（貸株先）が2025/2/17付で袴田から3百万株を借り入れたため、袴田の所有株式と持株比率が一時的に減少している経緯であり、**袴田による当社経営のコミットメントには一切影響はございません**

## EXPAND OUR PLANET. EXPAND OUR FUTURE.

地球と月がひとつのエコシステム  
となる世界を築くことにより、  
月に新たな経済圏を創出する

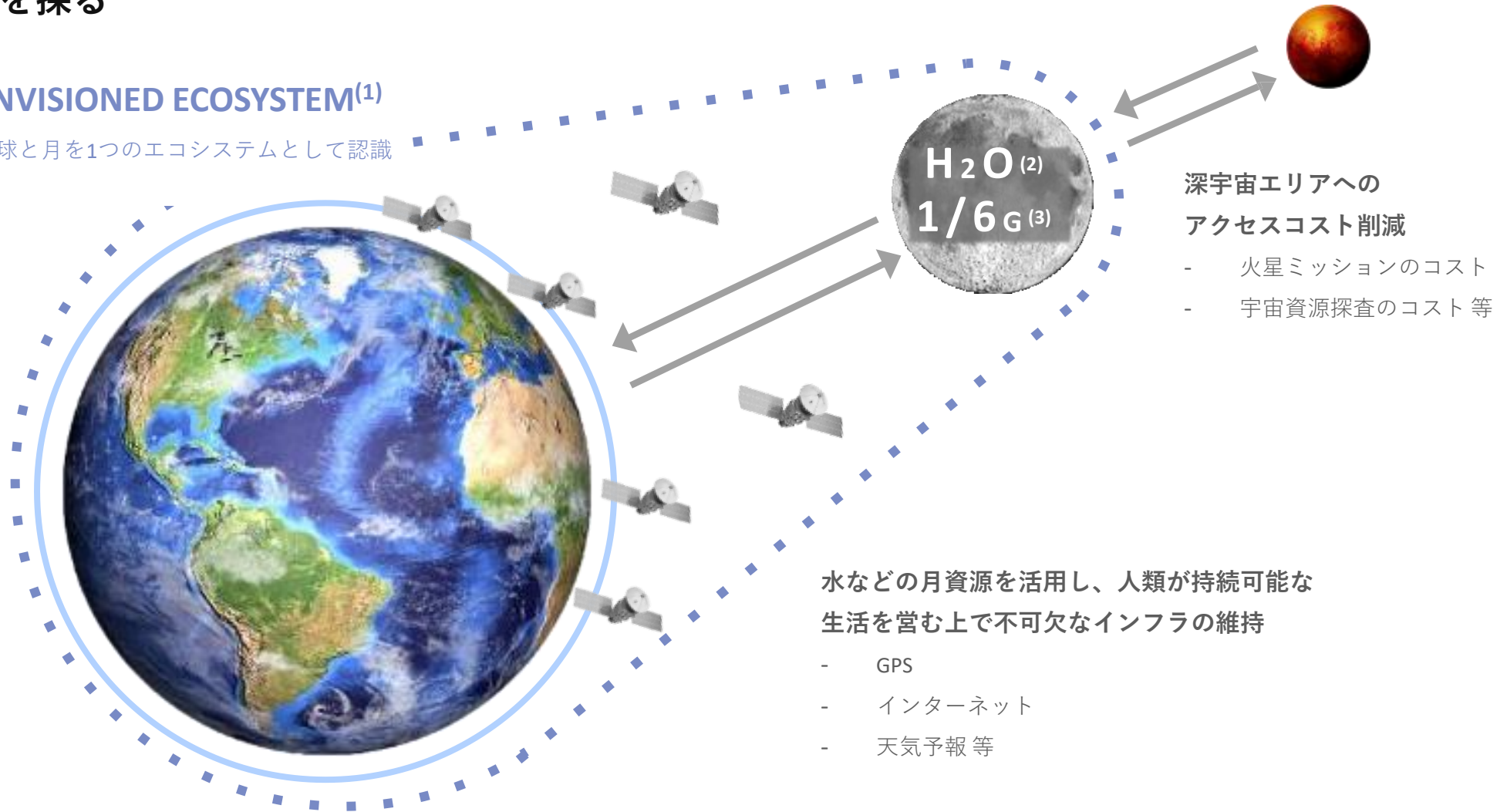
- “Moon Valley 2040” はispaceのビジョンであるEXPAND OUR PLANET. EXPAND OUR FUTURE. の世界観を表したものです。
- 2040年代までに1,000人が月面に居住し年間10,000人が月に訪れる世界を構想しています。
- 月に存在するとされる水資源を中心に、建設・製造・エネルギー・通信など様々な業界の後押しを受け、月面のインフラが確立され得ると考えています。
- 人間の生活圏を宇宙にまで拡大し、地球と月がひとつのエコシステムとなる世界を築くことを長期のゴールとしております。



# 月に存在するとされる水資源を活用することで、宇宙における「燃料補給中継基地」としての月の可能性を探る

## ENVISIONED ECOSYSTEM<sup>(1)</sup>

地球と月を1つのエコシステムとして認識



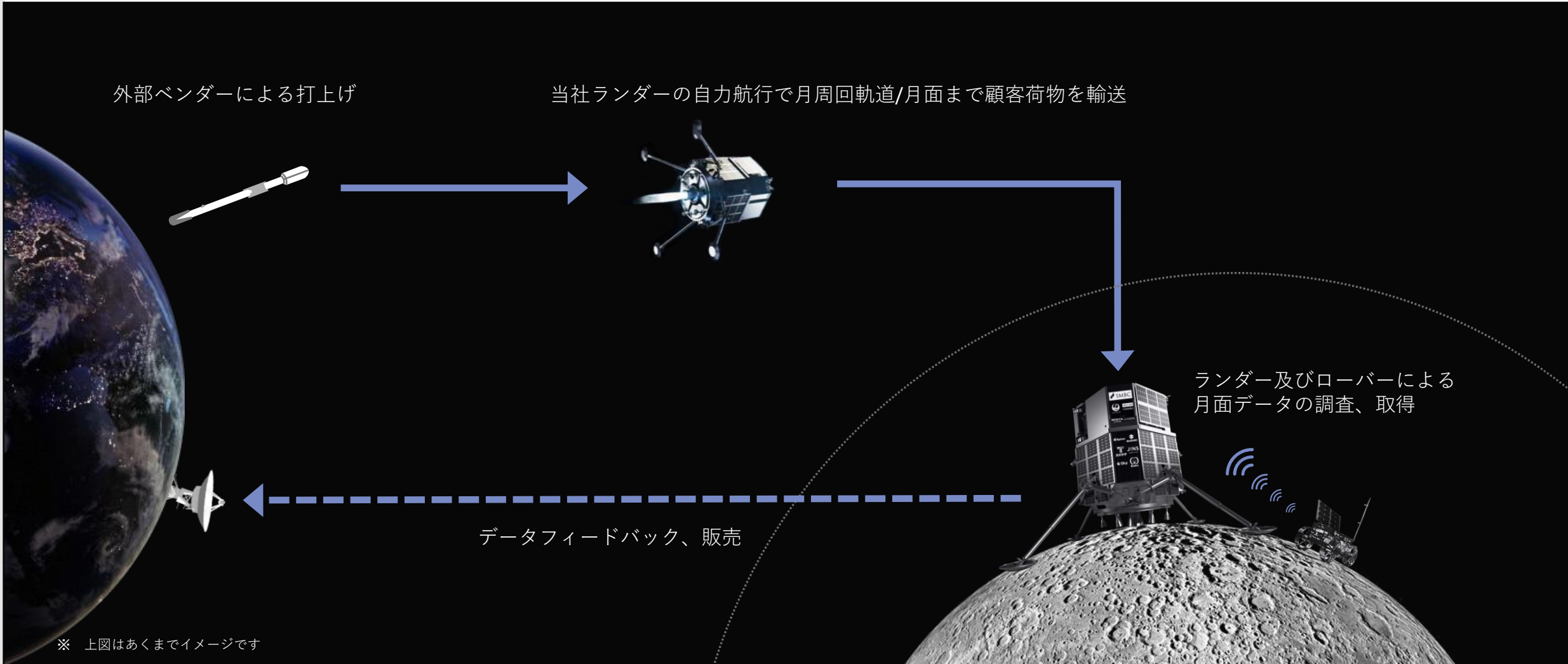
(1) 上図はあくまでイメージです

(2) 研究によると水は月に広く分布している可能性が示唆されています。月面で抽出した水を水素と酸素に電気分

解し、燃料源として利用できる可能性があると考えています

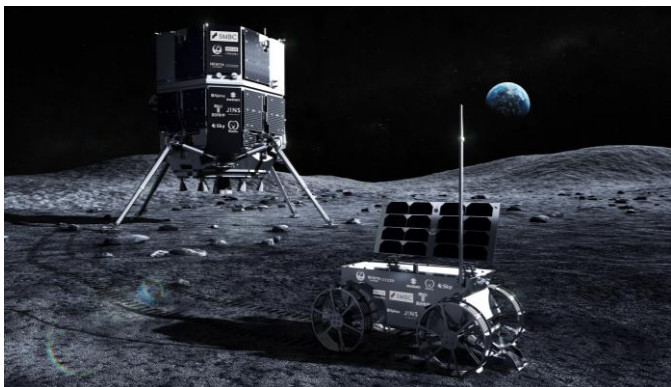
(3) 月は地球の1/6の重力しかないため、月の打上げコストは理論上地球より低くなります

# 外部ベンダーを利用し、打上げたランダーは自力で月へ航行し、着陸後はランダー及びローバーによって月面データを調査、取得する



※ 上図はあくまでイメージです

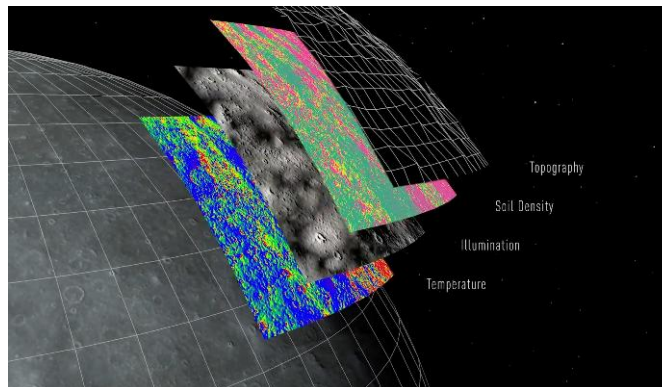
## ペイロードサービス及びパートナーシップサービスが現在のビジネスの中核。 今後新たにデータサービスの確立を見込む



### ペイロードサービス

#### 当社の売上高を牽引する中核サービス

- 顧客の荷物を預かり、月周回軌道/月面まで輸送するサービス
- 顧客は必要な実験等を実施の上、月周回軌道/月面のペイロードから必要なデータを獲得

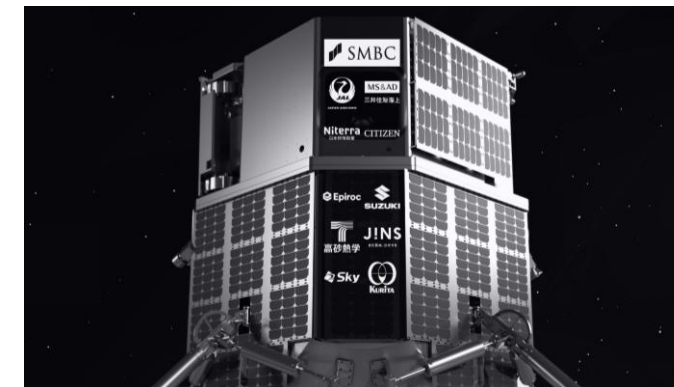


### データサービス

#### 今後の成長ドライバー

- 当社の自社ペイロードを使って顧客は必要なデータを獲得
- 将来的には、高頻度なミッションにより蓄積されたデータベースへのアクセスを顧客に提供する計画
- 現時点でデータサービス売上は未計上

\* データサービスに関する詳細は、2024/6/28開示の「事業計画及び成長可能性に関する事項」p.36-37をご参照ください



### パートナーシップサービス

#### 創業時から続くサービス

- ispaceのランダー及びローバーにスポンサーとしてロゴを掲載し、顧客のマーケティングを支援
- また各社は技術面や事業開発面で、当社と協業を実施



当社が公表しているミッションスケジュール<sup>(1)</sup>

2022	i s p a c e		<b>Mission 1 (実施済)</b>
⋮			
2025	i s p a c e		<b>Mission 2 (運用中)</b>
⋮			
2027	i s p a c e - U.S. 		<b>Mission 3</b>
	i s p a c e		<b>Mission 4</b>
2028	i s p a c e - U.S. 		<b>Mission 5</b>
	i s p a c e		<b>Mission 6</b>
2029	i s p a c e - U.S. 		<b>Mission 7</b>
	i s p a c e		<b>Mission 8</b>
	i s p a c e - U.S. 		<b>Mission 9</b>

# Mission 2

January 15, 2025

ケープカナベラルにて、RESILIENCEランダーを搭載した SpaceXのFalcon 9ロケットが打上がる様子



<sup>(1)</sup> 2025/5/9時点。上記は現在想定しているミッション及びスケジュールであり、変更となる可能性があります

2022年（実施済）

# Mission 1

## ミッション全体像

- 2022年、**営利企業として初の月着陸船**の打上げに成功

技術的な成果

- **大部分のランダーハードウェアの実証に成功**
- 最終的な月面軟着陸に至らなかった要因はソフトウェア上の問題。2023年時点で**既に原因を解明し、ミッション2に向けた改善**を実施

モデルの実証  
持続可能な  
ビジネス

- 軟着陸の失敗によるペイロード顧客への**返金は発生せず**。ミッション1完了後も、新規顧客及び既存顧客からの引き合いが継続中
- **世界初の月保険**をパートナー企業と共に組成し、2023年8月に37億円<sup>(1)</sup>の保険金を受領

## 使用するランダー等

### (旧) Series 1ランダー

#### サイズ

高さ約2.3m、幅約2.6m  
(着陸脚を広げた状態)

#### 重量

約1,000kg (Wet: 燃料装填時)  
約340kg (Dry: 無燃料時)

#### ペイロード積載可能容量

最大30kg



## ペイロード顧客

総契約金額:

約 \$ **10** MM<sup>(1)</sup>

Niterra

固定電池



月面探査  
ローバー



変形型月面  
ロボット

Mission Control  
Space Services

AIのフライト  
コンピューター

Canadensys  
Aerospace

カメラ



刻印パネル



HAKUTOの応援歌を収録した  
ミュージックディスク

(1) 数値は小数点以下切り捨てとなっています

ミッション1について - サクセスマイルストーン

最終的な月面着陸にまで至らなかったものの、設定した10のマイルストーンのうち8までを達成。  
着陸直前までの間に貴重な航行データを収集

Success 1 ✓  
打上げ準備の完了  
[2022/11/28に達成]

Success 2 ✓  
打上げ及び分離の完了  
[2022/12/11に達成]

Success 3 ✓  
安定した航行状態の確立  
[2022/12/16に達成]

Success 4 ✓  
初回軌道制御マヌーバの完了  
[2022/12/15に達成]

Success 5 ✓  
深宇宙航行の安定運用を  
1か月間完了  
[2023/1/11に達成]

Success 6 ✓  
月周回軌道投入前の全ての  
深宇宙軌道制御マヌーバの完了  
[2023/3/18に達成]

Success 7 ✓  
月重力圏への  
到達/月周回軌道への到達  
[2023/3/21に達成]

Success 8 ✓  
月周回軌道上での  
全ての軌道制御マヌーバの完了  
[2023/4/14に達成]

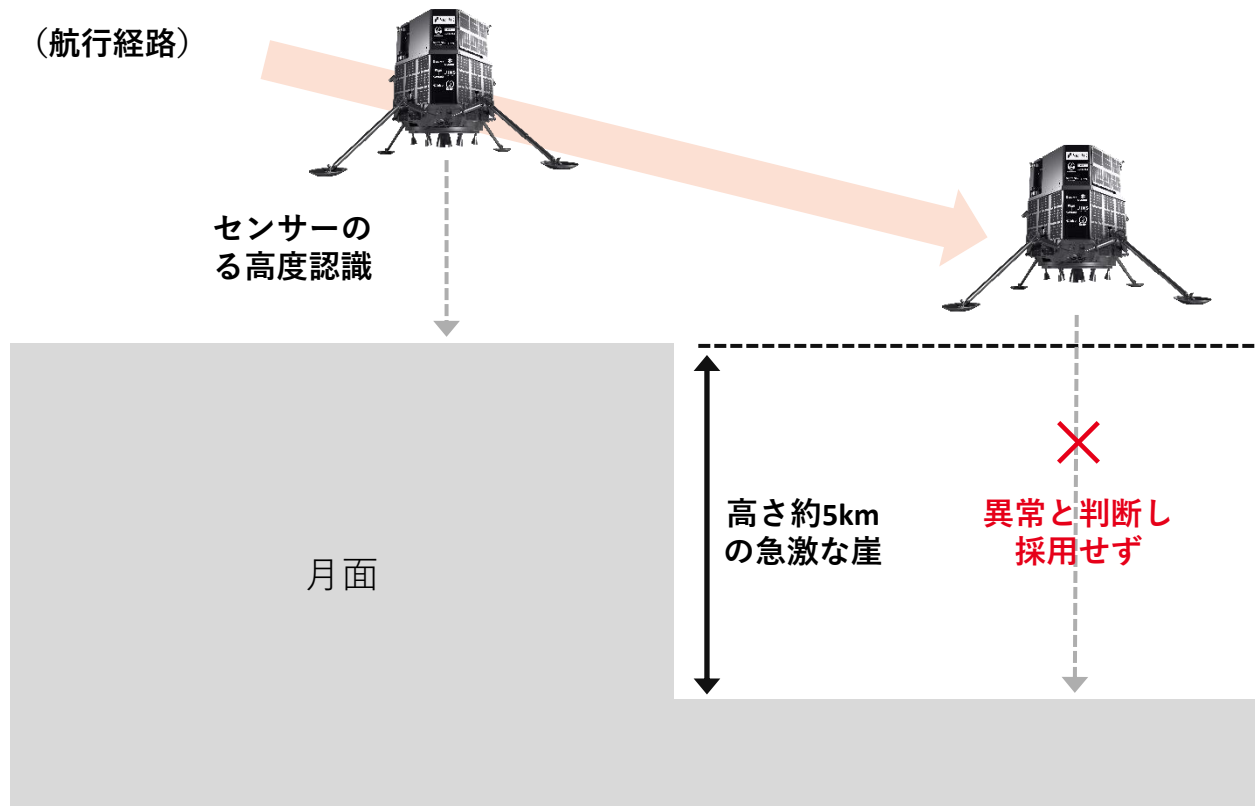
Success 9  
月面着陸の完了  
[未達]

Success 10  
月面着陸後の  
安定状態の確立  
[未達]

民間企業として初めて月面へ最終降下フェーズまで到達。今後のミッションに活用できる貴重なデータを獲得し、ミッション1の結果を踏まえたミッション2以降に係る方針を策定



失敗の要因は「高度の誤認識」：想定外の高度変化をセンサー異常と捉えてしまったことが問題。  
 当不具合は、ミッション2では既に修正対応済み

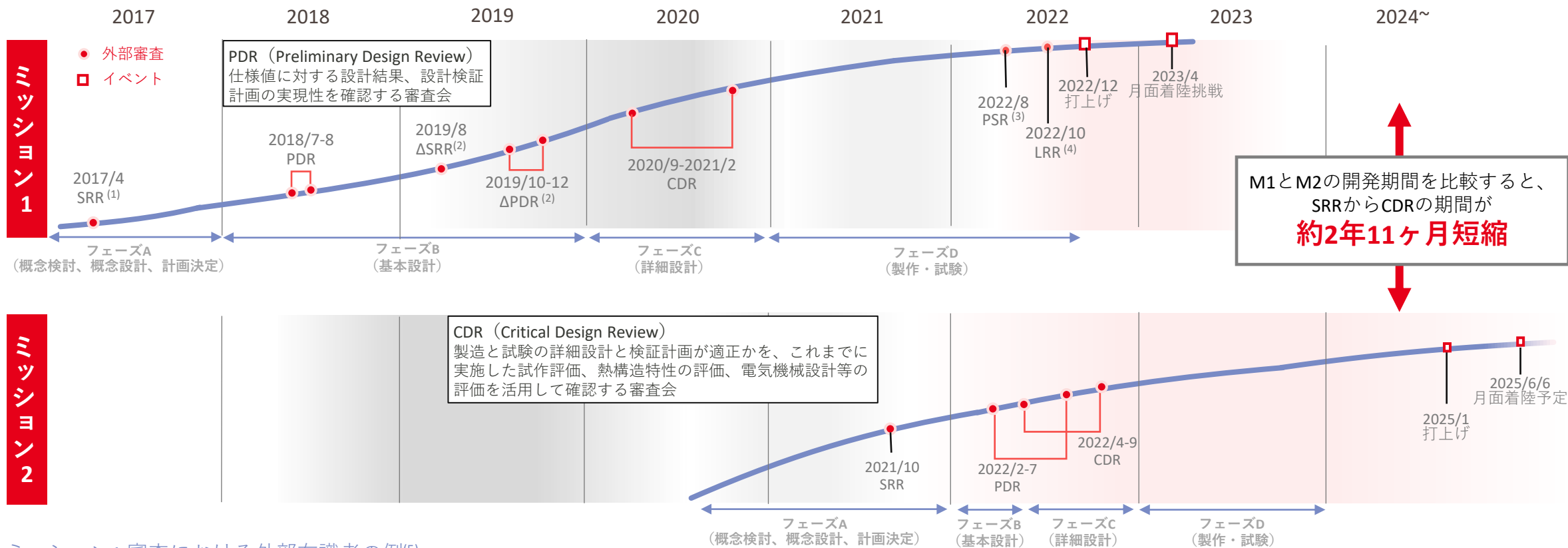


- 月面着陸直前、高度センサーが瞬間的に急激な高度変化を感知
- システムはこれを異常による誤情報と判断し、以降、センサーによる高度情報を採り入れず航行










- 実は瞬間的な高度変化は、航行経路上の高さ約5kmもの崖によるもので、センサーは正しかった
- 実際には上空にありながら、ランダーは安定した月面着陸姿勢に入る（最終的には燃料が尽き落下）

# ミッション成功の確率を高めるため、マイルストーンごとに審査を実施。中でも本格的な資本投下の直前に設定されるPDR及びCDRは重要なKPI。ミッションを重ねるごとに効率化及び質の向上を図る

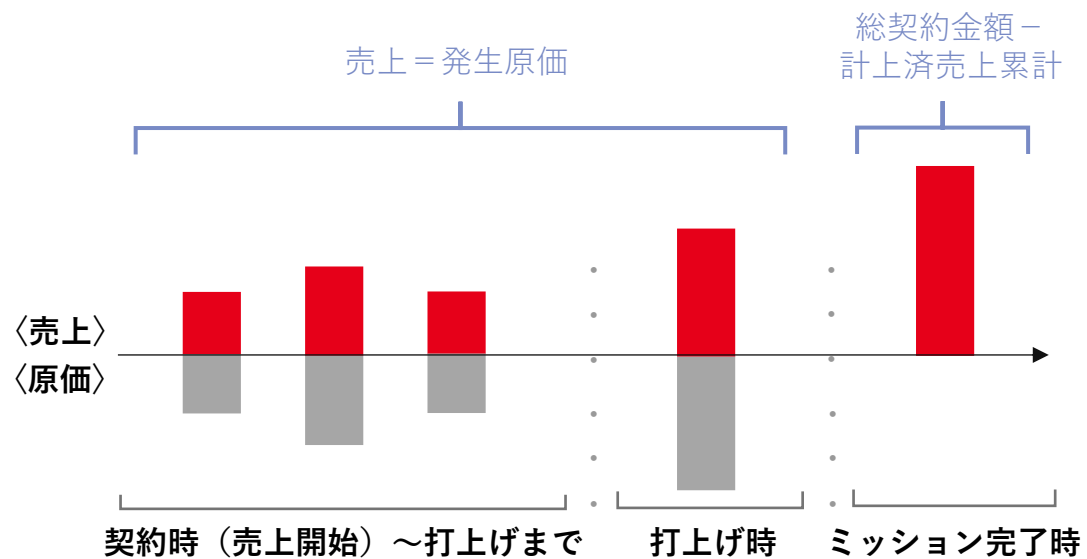


## ミッション1 審査における外部有識者の例<sup>(5)</sup>

<b>SRR</b>		<b>PDR</b>		<b>CDR</b>	
	東京大学 船瀬准教授		宇宙科学研究所 稲谷教授		東京大学 中須賀教授
			宇宙科学研究所 稲谷教授		
			その他、国内外の30名の スペシャリスト		
					九州工業大学 趙教授
					
					宇宙科学研究所 高島教授

(1) System Requirement Review：ビジネス要件とシステム要件の整合性を確認の上、システム設計開始を承認する審査会 (2)ランダーの仕様変更を決定したため改めて実施  
(3) Pre-Shipment Review：試験結果の確認及び、打上げ場への輸送承認を行う審査会 (4) Launch Readiness Review：ロケットへのインテグレーション作業終了の確認及び、打上げと初期運用への移行承認を行う審査会 (5) 所属は審査時点

## 当社は原価回収基準を適用しており、売上計上は原価発生に連動



### 当社が適用する原価回収基準

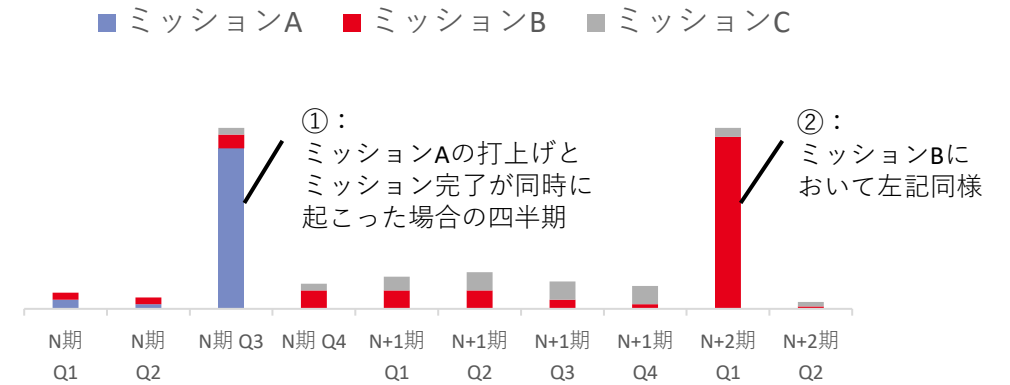
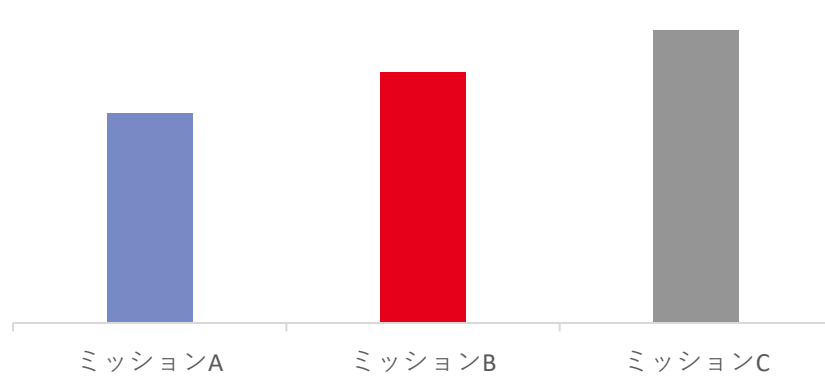
#### ミッション完了まで：

- 顧客からの前入金が売上計上額の上限
- その範囲内で、発生した原価と同等金額を売上として計上
- つまり、ミッション単体で見た粗利は常にゼロ

#### ミッション完了時：

- 顧客からの入金額が売上計上額の上限となるのは不変
- ミッションの総契約金額から、それまでに計上した売上を除いた金額を、完了時の売上として一括計上
- つまり、完了時点で初めてミッション単体での粗利を認識

## 四半期売上は時期により偏りが発生しやすいため、ミッション単位での総契約金額が当社のKPI



### 総契約金額<sup>(1)</sup>

- 総契約金額を2-3年かけて売上計上しており、ミッション単位での総契約金額 = ミッション単位での累計売上額となる
- つまり、総契約金額は将来的な売上の先行指標
- 四半期売上と比較し、総契約金額の多寡は当社のビジネス進捗をダイレクトに反映しやすい指標

### 四半期売上<sup>(1)</sup>

- ①及び②の四半期のように、ミッションの打上げ及びミッション完了時に売上が突出して大きくなる
- この売上増は、あくまで会計基準に基づき売上が集中するだけであり、本質的な当社の事業進捗を必ずしも表してはいない

(1) 上記グラフはあくまでイメージであり、実際の総契約金額や四半期売上を示すものではありません

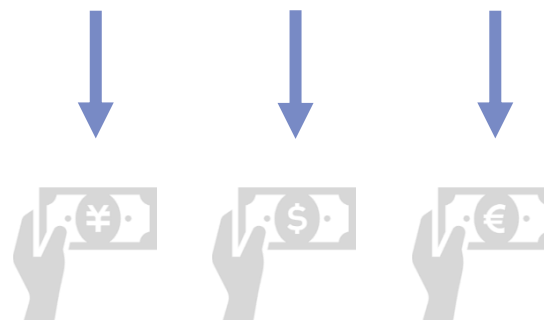


## ミッション成否による売上計上への影響は限定的



### 解約不可かつ返金不要の契約

- ペイロード契約は原則、顧客事由での中途解約は不可、かつ返金義務はないため、入金済の金額の返還義務は発生しない<sup>(1)</sup>



### 約9割が打上げ前に入金予定

- ミッション3までの締結済の全てのペイロード契約を平均すると、契約金額の約9割が打上げ前に入金される定め<sup>(1)</sup>
- 打上げ後に一部入金を設定されていても、最終的なミッション成否に関わらず、条件達成状況に応じて入金される

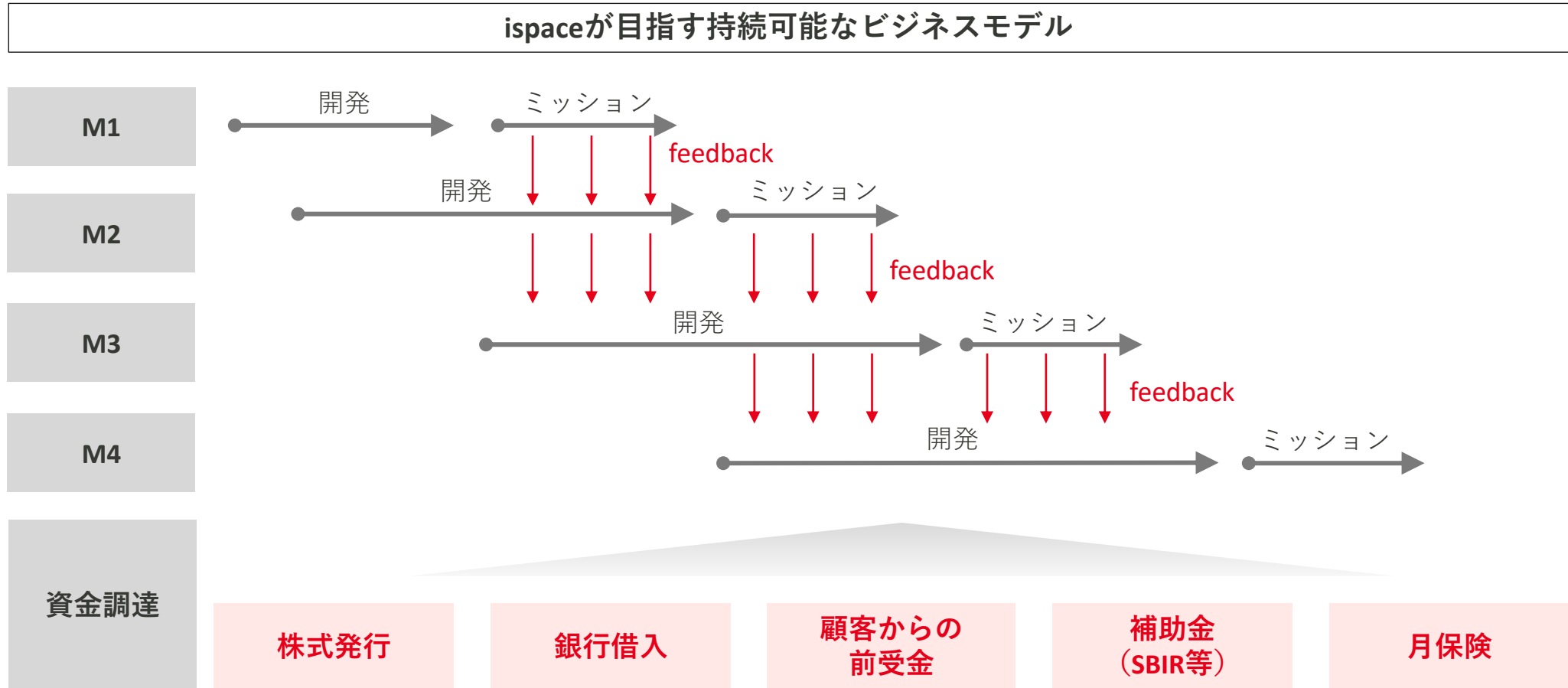


### ミッション1での影響は8%のみ

- ミッション1においては総契約金額12億円のうち、約1億円（全体の約8%）が着陸未達によって売上が減少したものの、その影響は限定的

(1) 重大な契約違反の場合は除く

複数ミッションを並行開発し、先行ミッションから得た経験を後続ミッションへ適時・適切に伝達し技術の成熟度を高めるモデル。この並行開発を支える強固な財務基盤が不可欠



(単位：百万円)	2023年3月期					2024年3月期					2025年3月期				
			M1 打上げ			M1完了							M2 打上げ		
	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	Q1	Q2	Q3	Q4	通期
売上高 <sup>(1)</sup>	194	201	428	165	989	815	514	496	530	2,357	635	706	647	2,755	4,743
売上原価	129	55	215	35	436	243	400	377	407	1,428	528	609	483	879	2,499
売上総利益	64	146	212	129	552	571	114	118	123	928	107	97	163	1,877	2,244
売上総利益率	33.1%	72.6%	49.7%	78.3%	55.9%	70.1%	22.2%	23.9%	23.3%	39.4%	16.9%	13.8%	25.3%	68.1%	47.3%
販売管理費	1,304	1,227	7,243	1,801	11,576	1,681	1,045	1,826	1,876	6,429	2,402	1,536	2,863	5,238	12,039
研究開発費	922	767	6,492	1,051	9,233	1,065	571	1,060	1,137	3,834	1,411	791	1,506	4,022	7,730
給料及び手当	133	165	233	191	723	222	208	296	269	997	475	297	413	337	1,522
その他	247	294	518	558	1,619	392	265	469	469	1,598	516	447	943	880	2,786
営業損益	△1,240	△1,080	△7,031	△1,671	△11,023	△1,109	△931	△1,707	△1,752	△5,501	△2,295	△1,439	△2,699	△3,362	△9,795
為替損益	140	106	△231	67	83	288	115	△499	737	641	858	△2,223	1,896	△1,175	△644
その他	△5	△303	△71	△56	△437	△553	△66	△125	△491	△1,237	△139	△552	△186	△18	△895
経常損益	△1,105	△1,278	△7,333	△1,660	△11,378	△1,375	△882	△2,332	△1,507	△6,097	△1,576	△4,214	△989	△4,555	△11,334
当期純損益	△1,106	△1,277	△7,333	△1,680	△11,398	△1,374	2,912	△2,374	△1,529	△2,366	△1,579	△4,812	△973	△4,581	△11,945

(1) 当社はこれまでに、ミッション1-3の売上計上においてそれぞれ原価回収基準を用いておりますが、2025年3月期Q4からは、ミッション2において「履行義務の進捗度に基づき収益を認識する方法」を用いて売上を計上

(単位：百万円)	2023年3月期				2024年3月期				2025年3月期			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
流動資産合計	10,827	14,840	7,263	5,730	10,078	13,525	13,485	21,784	21,220	22,527	20,181	19,067
内 現金及び預金	5,175	8,617	4,399	3,381	7,611	11,522	9,676	14,315	12,673	13,153	13,233	13,117
内 短期前渡金	5,284	5,812	1,790	1,745	1,877	1,486	3,158	4,228	4,928	5,622	5,706	3,620
固定資産合計	606	699	1,481	1,461	1,756	4,878	4,828	5,248	5,341	6,018	6,649	8,121
内 有形固定資産	145	152	153	141	476	1,000	2,126	2,462	3,092	3,480	3,929	4,859
内 長期前渡金	319	319	1,118	1,148	1,140	3,616	2,465	2,560	1,965	2,310	2,473	2,997
総資産合計	11,433	15,539	8,745	7,192	11,835	18,403	18,314	27,033	26,561	28,545	26,831	27,189
流動負債合計	3,008	3,345	3,607	4,123	4,346	7,913	7,772	10,503	12,076	9,081	7,310	3,854
内 前受金	1,284	1,543	1,731	2,382	3,265	3,932	3,618	3,190	3,214	3,758	3,305	2,695
固定負債合計	700	5,692	5,691	5,416	4,871	4,877	6,866	6,784	6,471	14,081	14,907	16,326
内 長期借入金	688	5,680	5,680	5,395	4,570	4,570	6,570	6,538	6,224	13,830	14,701	16,096
純資産合計	7,724	6,501	△554	△2,347	2,617	5,612	3,675	9,745	8,013	5,383	4,613	7,007
(有利子負債)	2,138	7,113	7,088	6,778	5,029	8,020	10,020	12,518	14,054	18,083	17,231	16,096

## 本資料で使用される用語の説明

用語	説明
PDR	Preliminary Design Review。仕様値に対する設計結果、設計検証計画の実現性を確認する審査会
CDR	Critical Design Review。製造と試験の詳細設計と検証計画が適正かを、これまでに実施した試作評価、熱構造特性の評価、電気機械設計等の評価を活用して確認する審査会
PSA	Payload Service Agreement。ペイロードサービス契約のことで、弊社がお客様とペイロードサービスを締結する際に、最終合意となる契約文書
Interim PSA	Interim Payload Service Agreement。ペイロードサービス中間契約のことで、最終合意となるPSA契約を締結するための交渉の前提となる文書
MOU	Memorandum of understanding。基本合意書
RESILIENCE	ミッション2で使われるランダーの名称。RESILIENCEは日本語で「再起」や「復活」「回復」等の意味であり、ミッション1での月面着陸の失敗を有効に活用し、迅速かつしなやかに再起するという、“Never Quit the Lunar Quest”の精神が込められた名称
APEX 1.0	ミッション3で使われるランダーの名称。A Pioneer In Explorationの頭文字を取りAPEX
フライトモデル	実際に打上げるモデル
エンジニアモデル	基本設計に基づき製作されるモデル

## 本資料の取り扱いについて

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予想に関する記述には、既知及び未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の結果や業績は、将来予想に関する記述によって明示的又は黙示的に示された将来の結果や業績の予測とは大きく異なる可能性があります。

これらリスクや不確実性には、国内及び国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。